

第2章 テーマ別実態調査結果

1 . 中高年齢者の起業化に関する実態調査結果

1 - 1 調査概要

調査目的：本調査は、中高年齢者の起業化に関する動向を調査することにより、本県における創業の促進と中高年齢者の就業機会の創出に役立てることを目的とする。

調査対象：「中高年齢者のためのビジネス起業セミナー」の受講者 29 名

調査方法：調査票の直接配布・回収

調査時期：平成 17 年 9 月

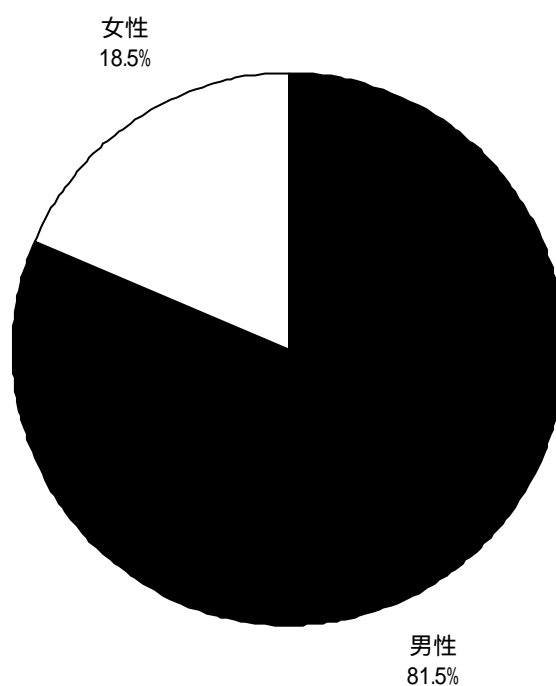
回収状況：有効回答数：27（回収率 93.1%）

集計分析：(株)茨城総合研究所

1 - 2 性別

回答者の性別は、「男性」が 81.5%、「女性」が 18.5%となっている（図表 1）。

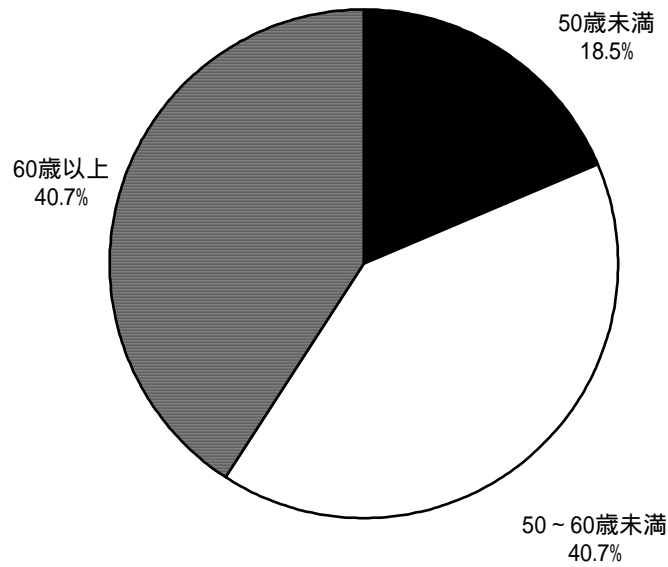
図表 1 性別



1 - 3 年齢

回答者の年齢は、「50歳未満」が 18.5%、「50～60歳未満」が 40.7%、「60歳以上」が 40.7%となっている。また、平均年齢は 56.7 歳であった（図表 2）。

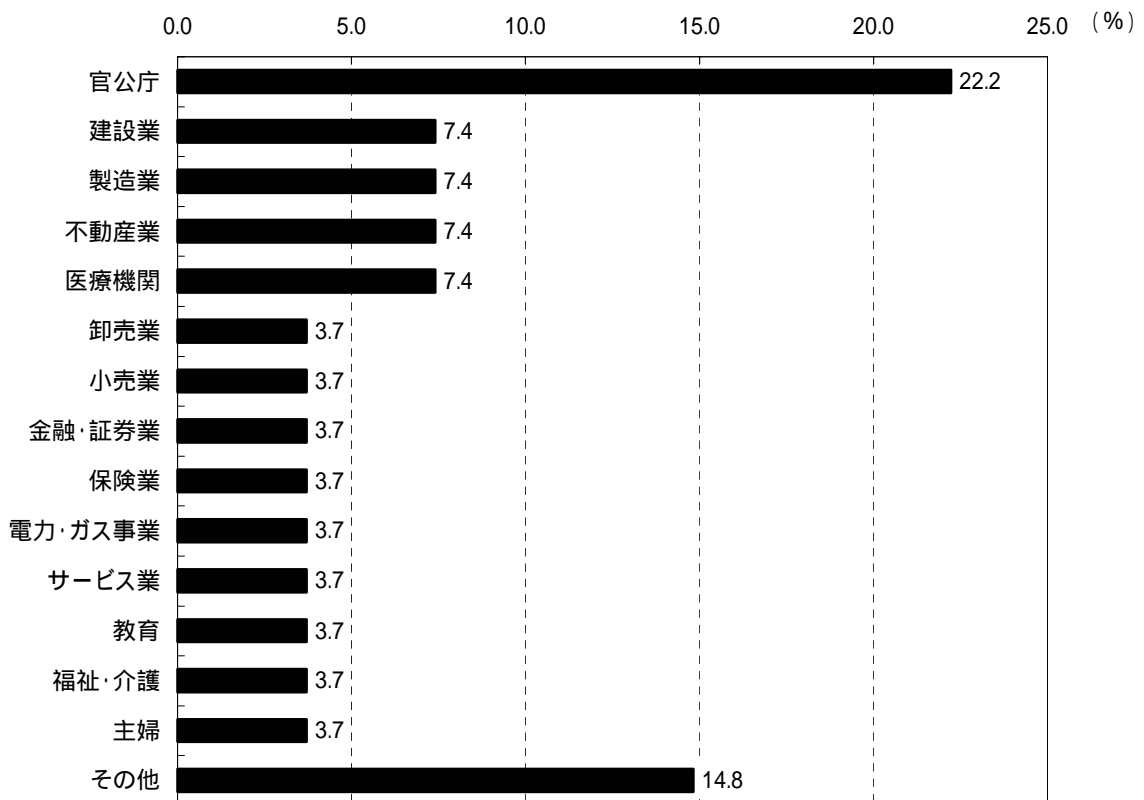
図表2 年齢



1 - 4 最終職歴の業種

現時点の最終職歴における業種について尋ねた。その結果、「官公庁」が22.2%と最も多く、「建設業」、「製造業」、「不動産業」、「医療機関」がそれぞれ7.4%でそれに続く（図表3）。

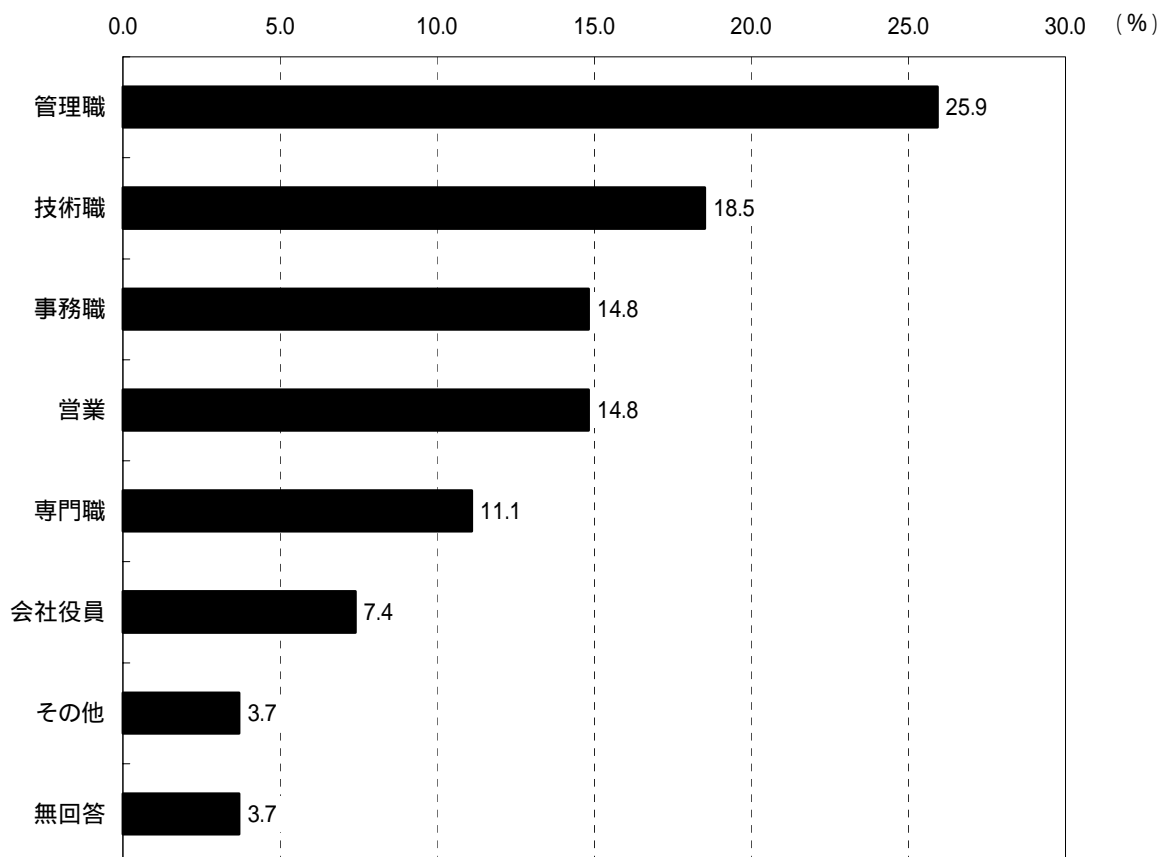
図表3 最終職歴の業績



1 - 5 最終職歴の職種

現時点の最終職歴における職種について尋ねた。その結果、「管理職」が 25.9%と最も多く、以下「技術職」(18.5%)、「事務職」「営業」(それぞれ 14.8%)、「専門職」(11.1%)といった回答が続く(図表 4)。

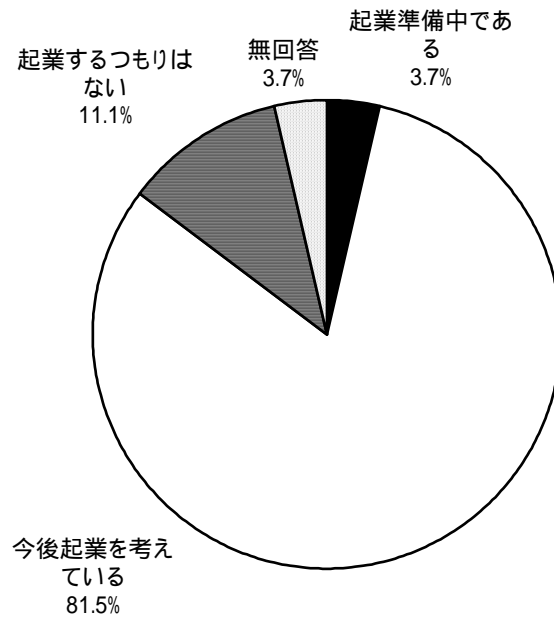
図表 4 最終職歴の業種



1 - 6 起業の予定

起業の予定(または意向)について尋ねた。その結果、「起業準備中である」が 3.7%、「今後起業を考えている」が 81.5%、「起業するつもりはない」が 11.1%となっている(図表 5)。

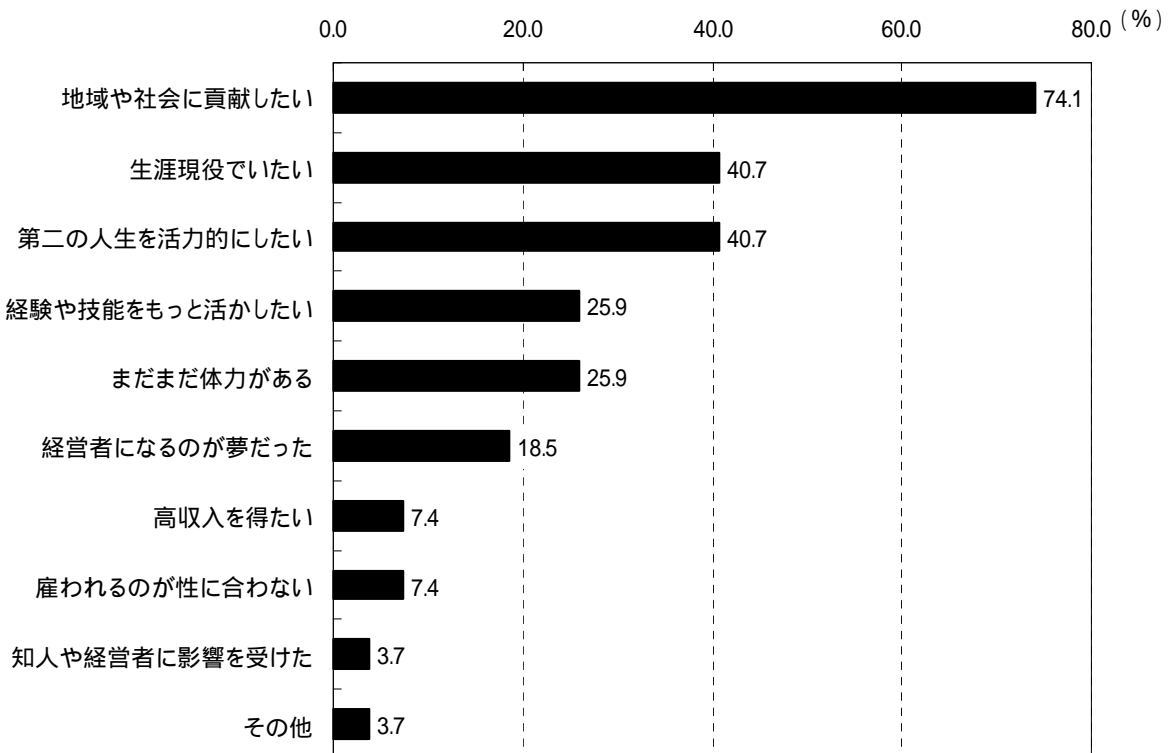
図表5 起業の予定



1 - 7 起業の動機

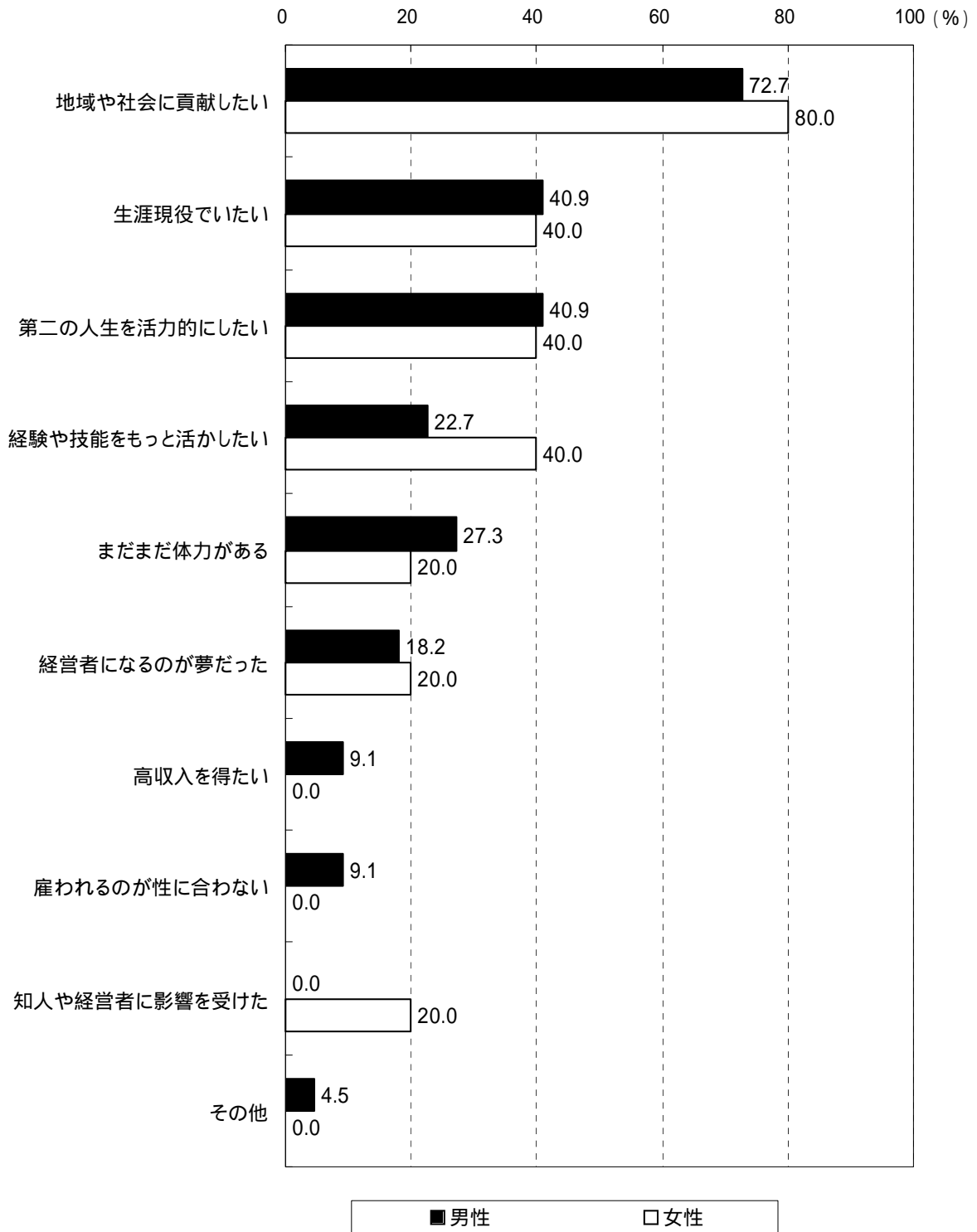
起業の動機について複数回答で尋ねた。その結果、「地域や社会に貢献したい」が74.1%と最も多く、以下「生涯現役でいたい」「第二の人生を活力的にしたい」(共に40.7%)、「経験や技能をもっと活かしたい」「まだまだ体力がある」(共に25.9%)といった回答が続く(図表6)。

図表6 起業の動機



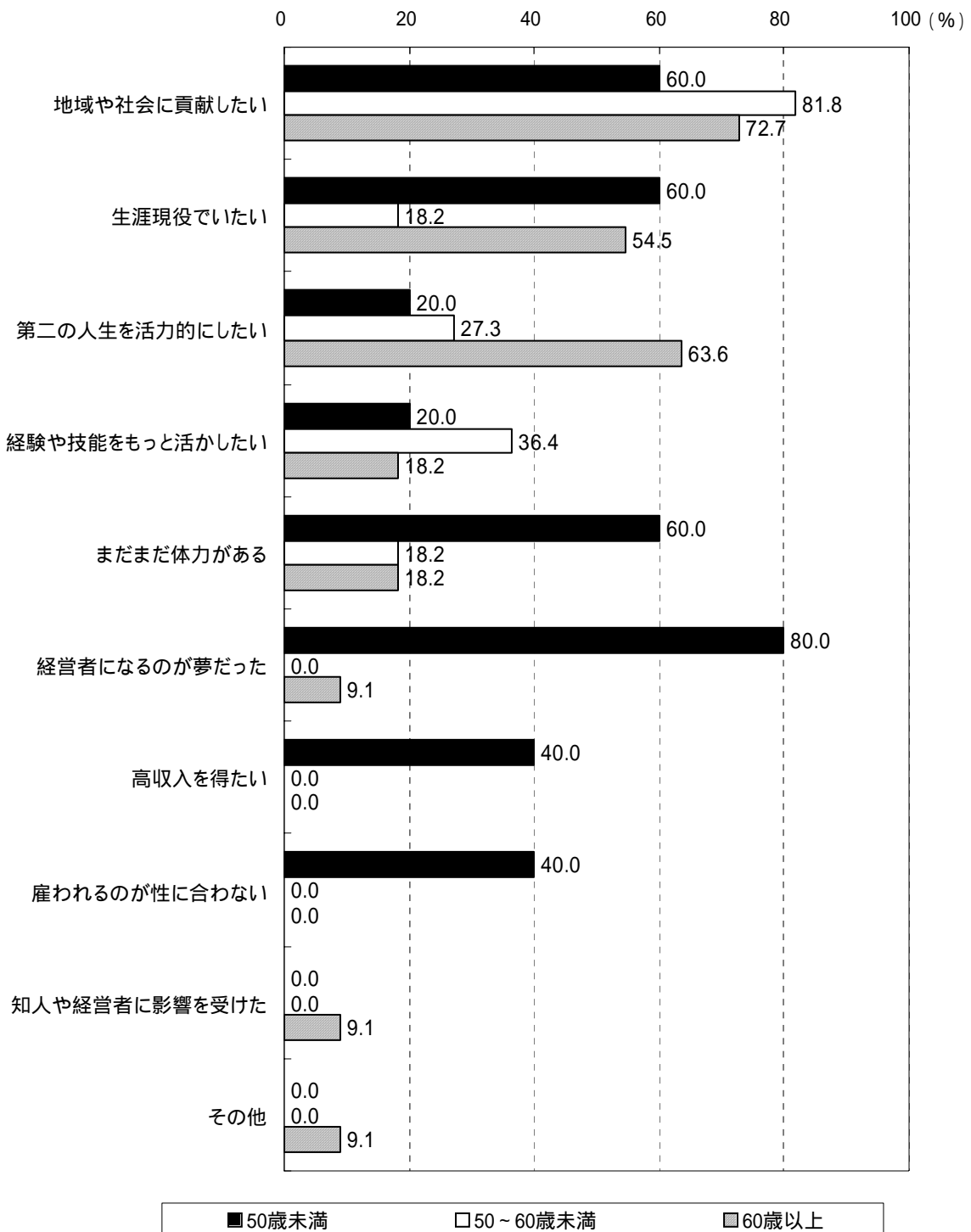
また、これを男女別にみると、「女性」で「経験や技能をもっと活かしたい」(40.0%)や「知人や経営者に影響を受けた」(20.0%)といった回答割合が比較的高くなっている(図表7)

図表7 起業の動機(性別)



また、年齢別にみると、「50歳未満」では「まだまだ体力がある」(60.0%)や「経営者になるのが夢だった」(80.0%)、「高収入を得たい」「雇われるのが性に合わない」(それぞれ40.0%)といった回答割合が高く、「50～60歳未満」では「経験や技能をもっと活かしたい」(36.4%)が、「60歳以上」では、「生涯現役でいたい」(54.5%)や「第二の人生を活発的にしたい」(63.6%)といった回答割合がそれぞれ高くなっている(図表8)。

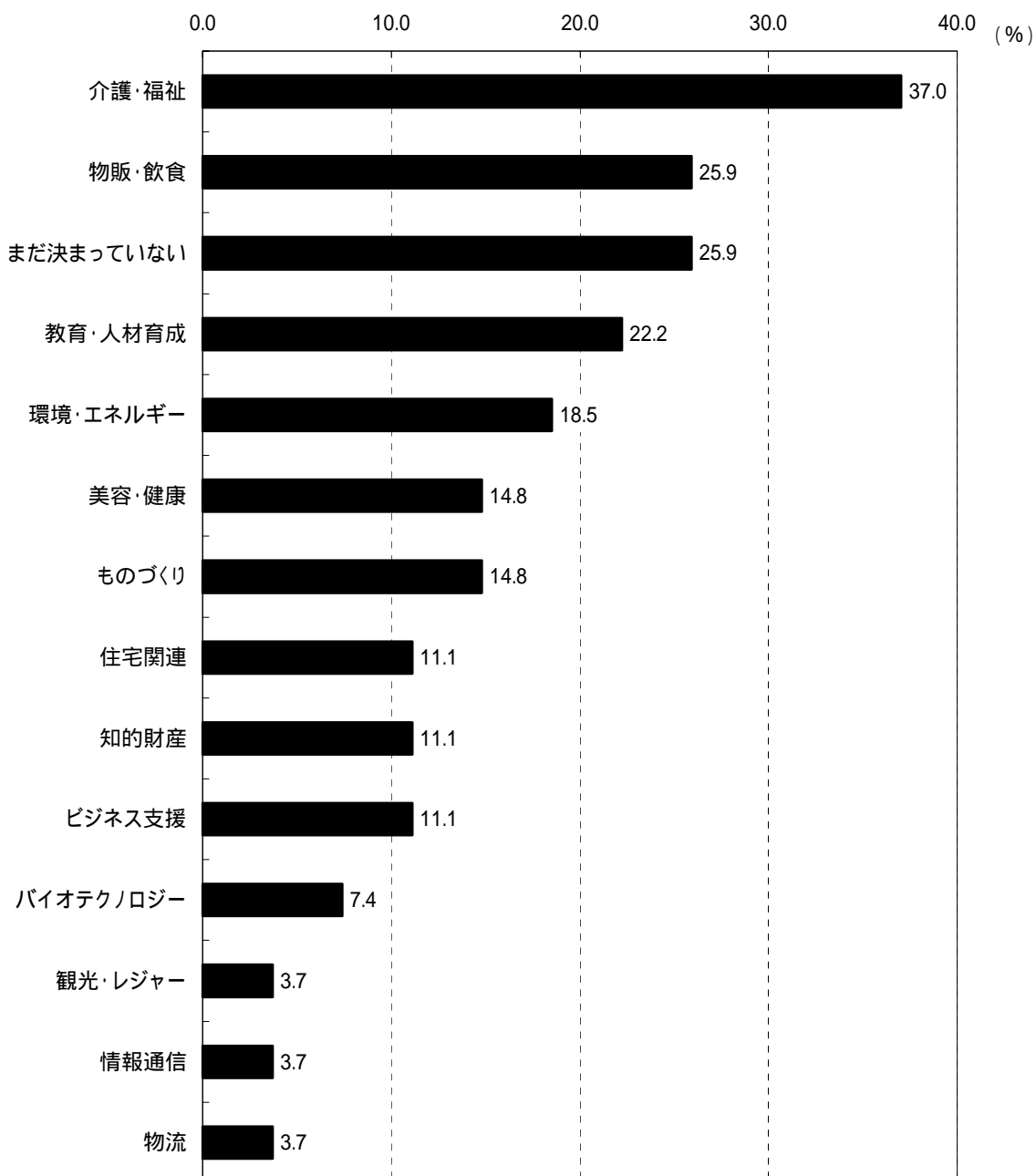
図表8 起業の動機(年齢別)



1 - 8 起業したい分野

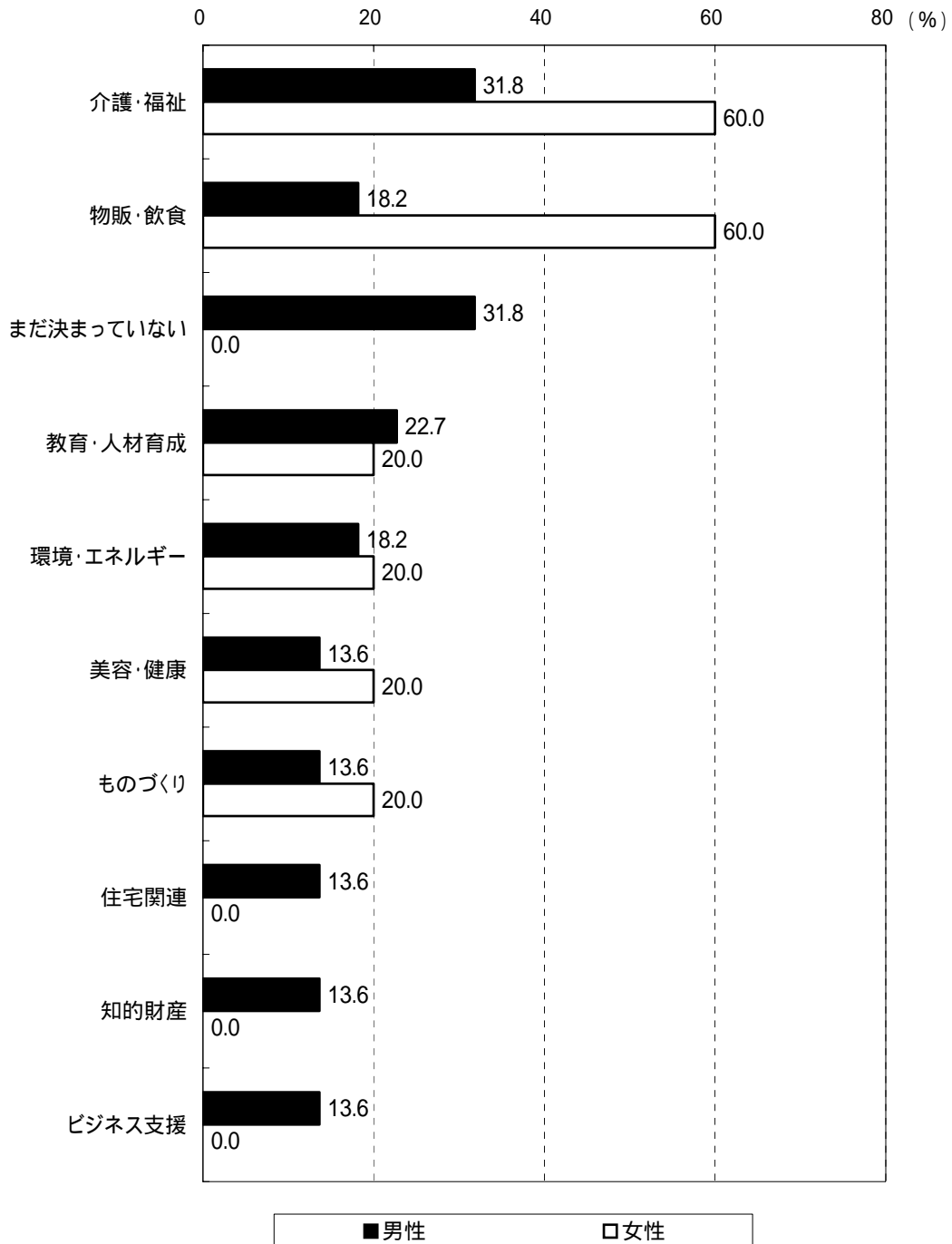
起業したい分野について、複数回答で尋ねた。その結果、「介護・福祉」が 37.0%と最も多く、以下、「物販・飲食」(25.9%)、「まだ決まっていない」(25.9%)、「教育・人材育成」(22.2%)、「環境・エネルギー」(18.5%)といった回答が続く(図表9)。

図表9 起業したい分野



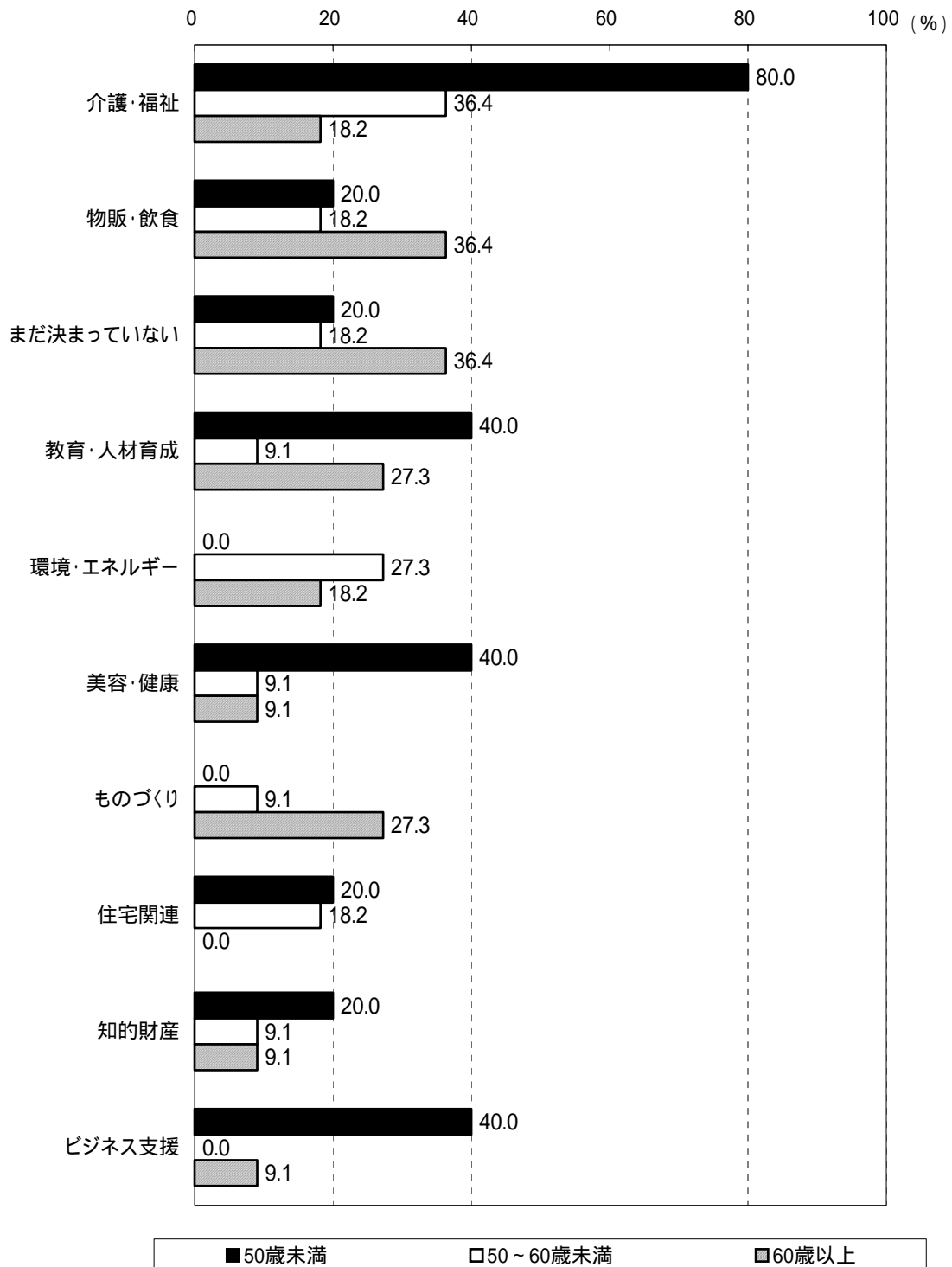
また、これを男女別にみると、「男性」で「まだ決まっていない」(31.8%)や「住宅関連」「知的財産」「ビジネス支援」(それぞれ 13.6%)といった回答が比較的多く、「女性」では「介護・福祉」や「物販・飲食」(それぞれ 60.0%)といった回答が多くなっている(図表 10)。

図表 10 起業したい分野(性別)



また、年齢別に見ると「50歳未満」では「介護・福祉」(80.0%)、「教育・人材育成」「美容・健康」「ビジネス支援」(それぞれ40.0%)といった回答が多く、「50～60歳未満」では「環境・エネルギー」(27.3%)が、「60歳以上」では「物販・飲食」「まだ決まっていない」(共に36.4%)、「ものづくり」(27.3%)などの回答が多くなっている(図表11)。

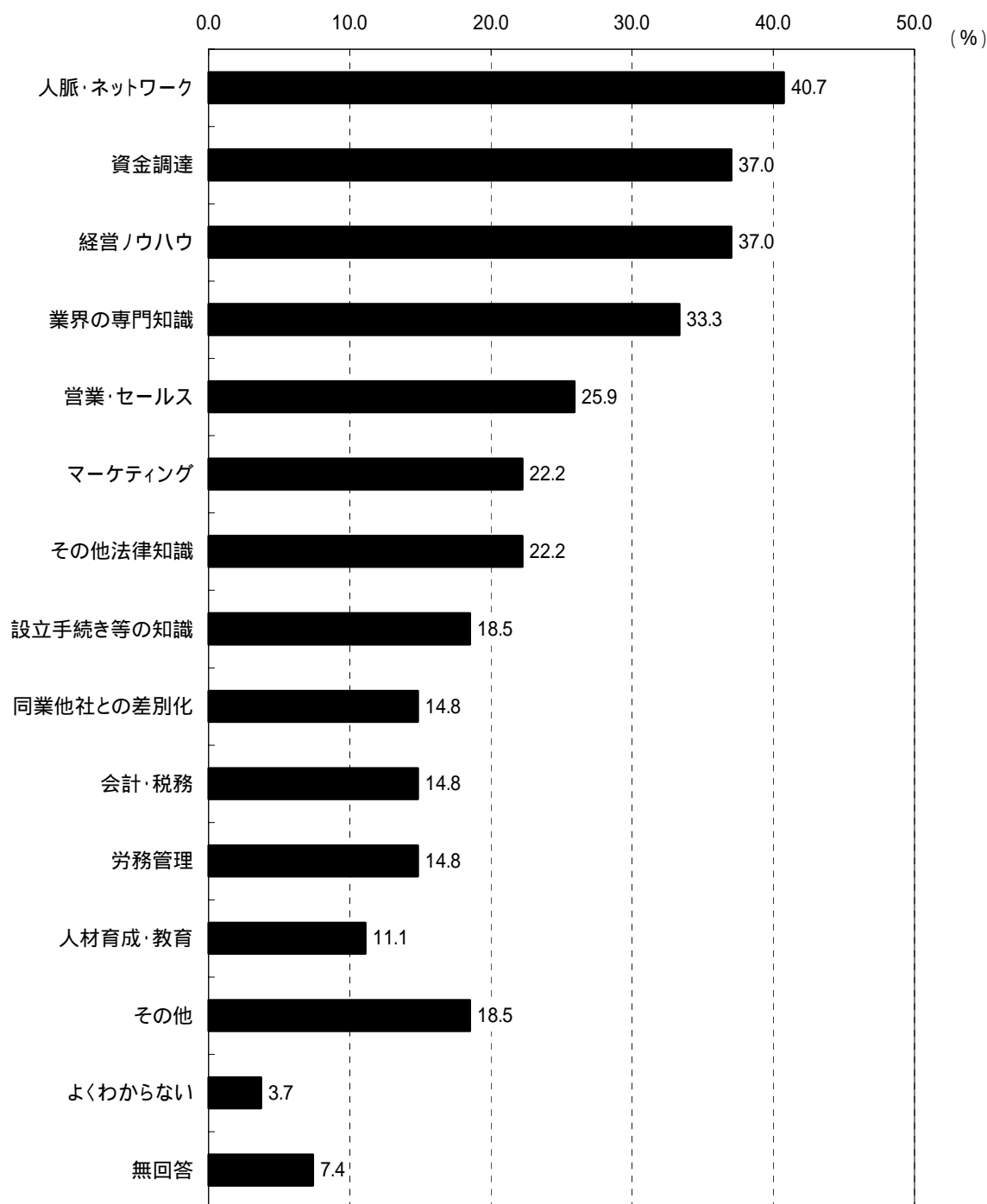
図表11 起業したい分野(年齢別)



1 - 9 起業する際に「足りない」「不安」に感じる要素

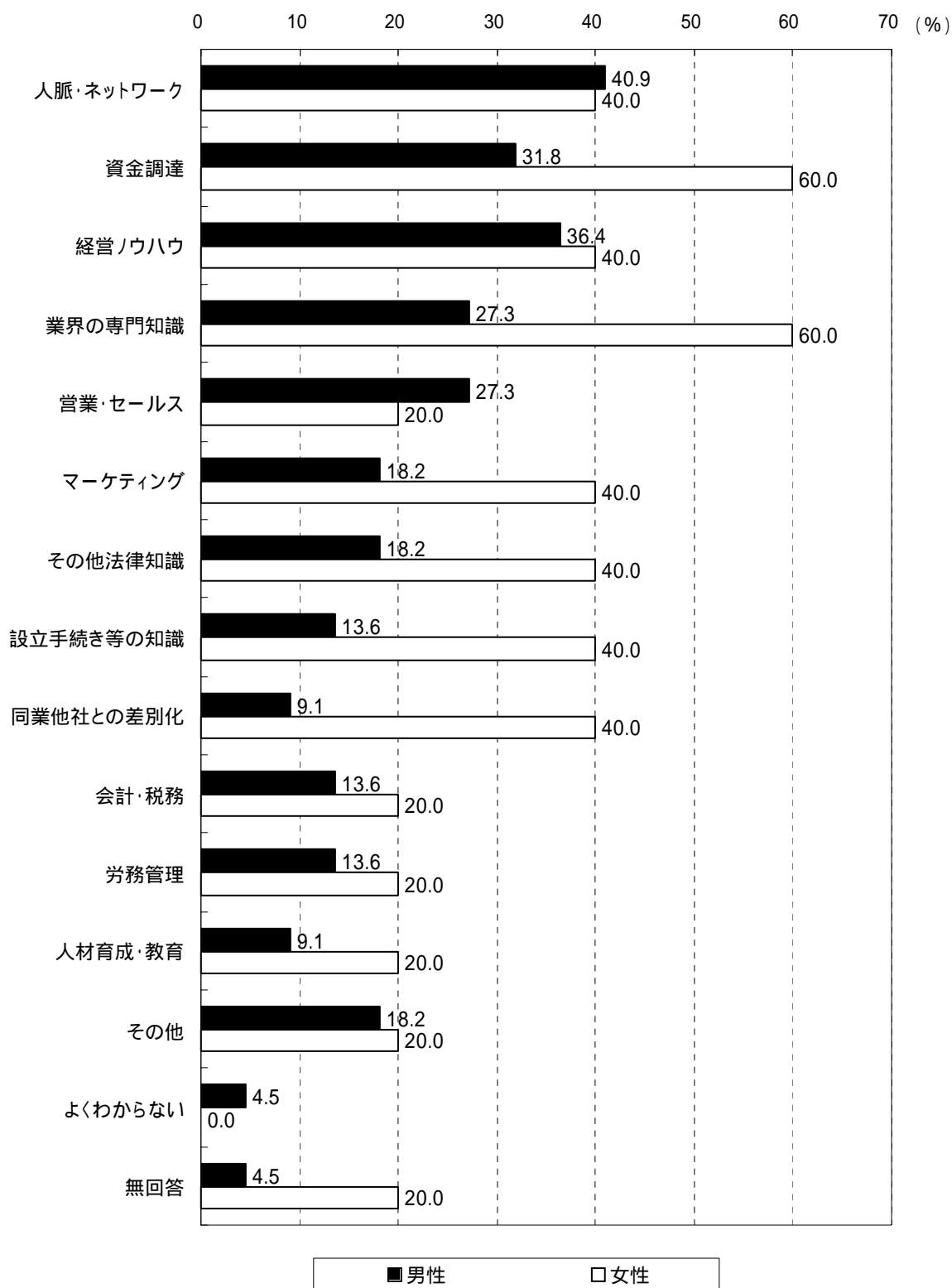
起業するにあたって、「足りない」あるいは「不安」と感じる要素について、複数回答で尋ねた。その結果、「人脈・ネットワーク」が40.7%と最も多く、以下「資金調達」「経営ノウハウ」(それぞれ37.0%)、「業界の専門知識」(33.3%)、「営業・セールス」(25.9%)、「マーケティング」「その他法律知識」(それぞれ22.2%)といった回答が続く(図表12)

図表12 起業する際に「足りない」「不安」に感じる要素



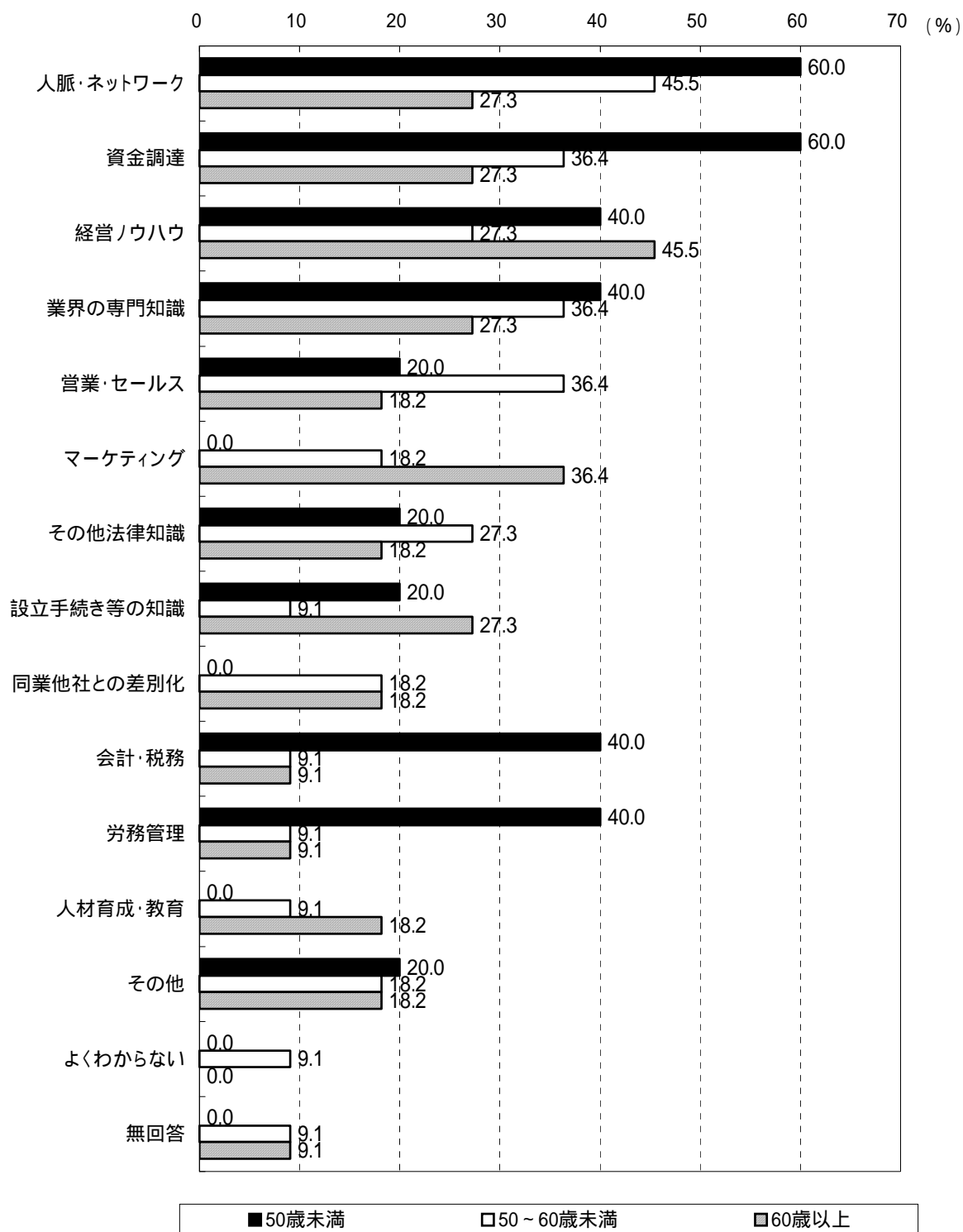
これを男女別にみると、「男性」に比べて「女性」の方が、起業にあたって「足りない」「不安」に感じる割合が全体的に高く、とくに「資金調達」や「業界の専門知識」(それぞれ 60.0%)、「マーケティング」「その他の法律知識」「設立手続き等の知識」「同業他社との差別化」(それぞれ 40.0%)といった項目の回答が多くなっている。(図表 13)

図表 13 起業する際に「足りない」「不安」に感じる要素(性別)



また、年齢別に見ると「50歳未満」では「人脈・ネットワーク」「資金調達」(それぞれ60.0%)や「会計・税務」「労務管理」(40.0%)といった回答割合が高く、「50～60歳未満」では「営業・セールス」(36.4%)、「その他の法律知識」(27.3%)等が、「60歳以上」では「マーケティング」(36.4%)、「設立手続き等の知識」(27.3%)、「人材育成・教育」(18.2%)等の回答がそれぞれ多くなっている(図表14)。

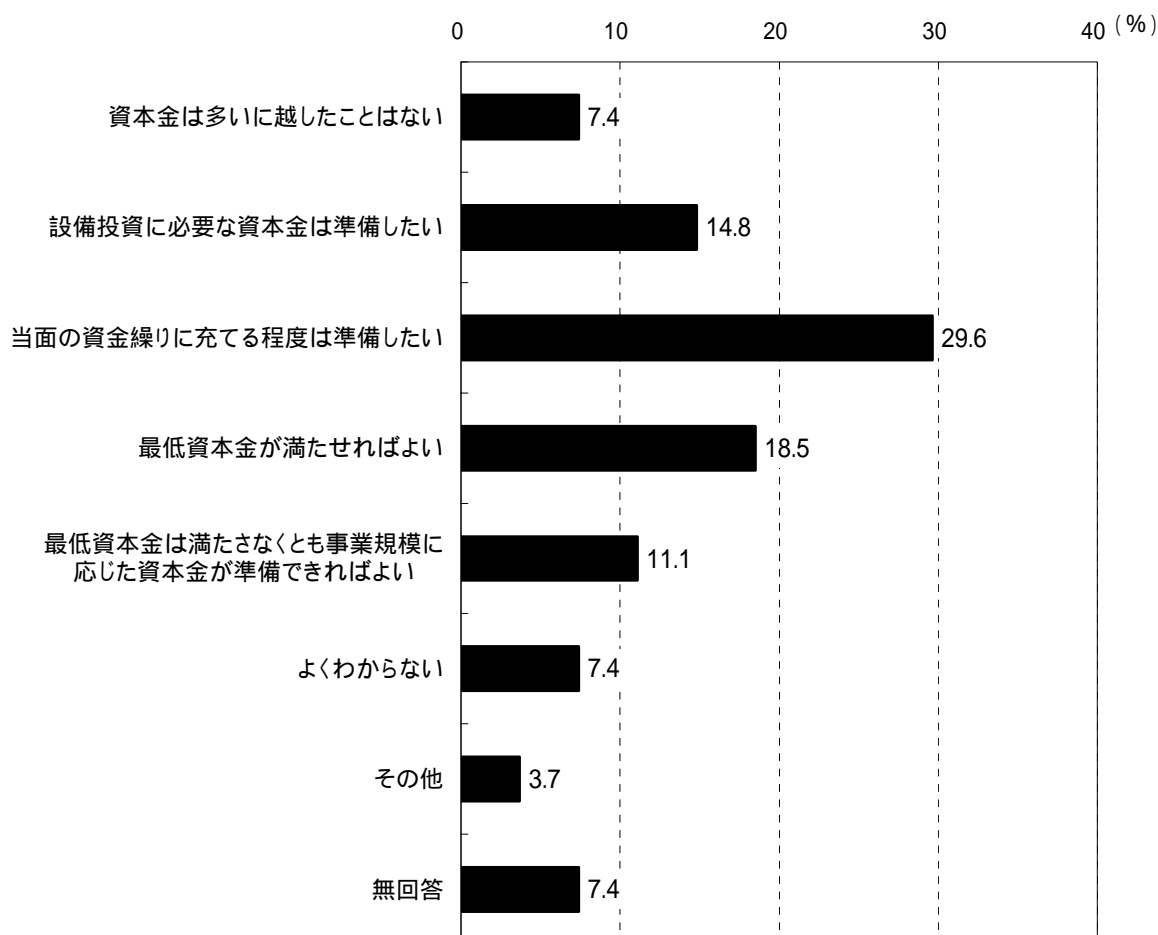
図表14 起業する際に「足りない」「不安」に感じる要素(年齢別)



1 - 10 資本金について

資本金についての考え方を尋ねた。その結果、「資本金は多いに越したことはない」が7.4%、「設備投資に必要な資本金は準備したい」が14.8%、「当面の資金繰りに充てる程度は準備したい」が29.6%、「最低限資本金が満たせればよい」が18.5%、「最低資本金は満たさなくとも事業規模に応じた資本金が準備できればよい」が11.1%、「よくわからない」が7.4%であった（図表15）。

図表15 資本金について

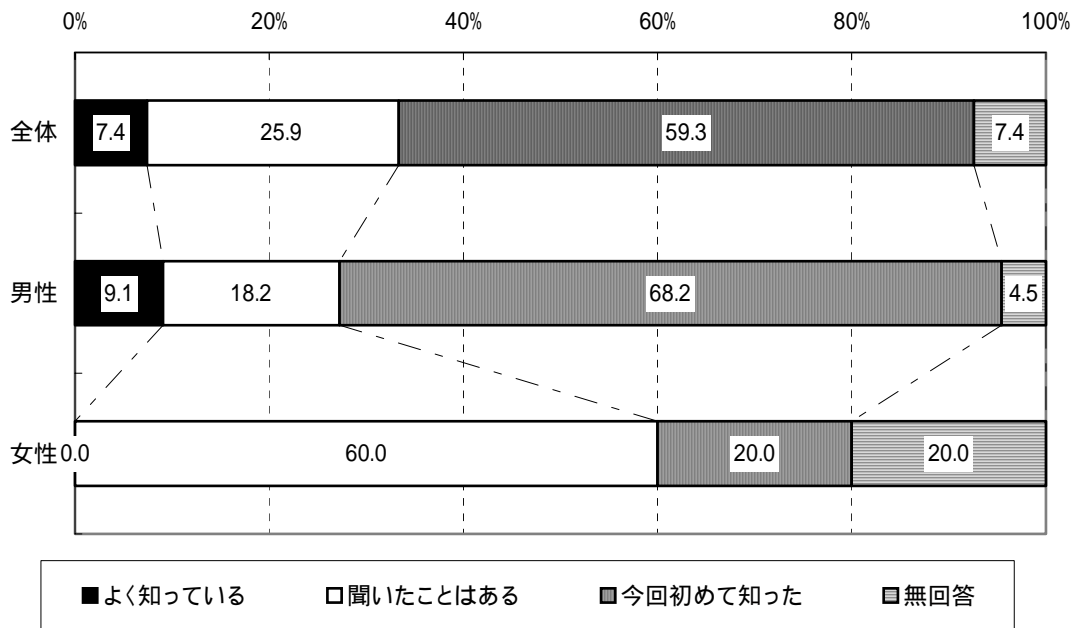


1 - 11 企業組合の認知度

企業組合についての認知度を尋ねたところ、「よく知っている」という回答が7.4%、「聞いたことはある」が25.9%、「今回初めて知った」が59.3%となっている。

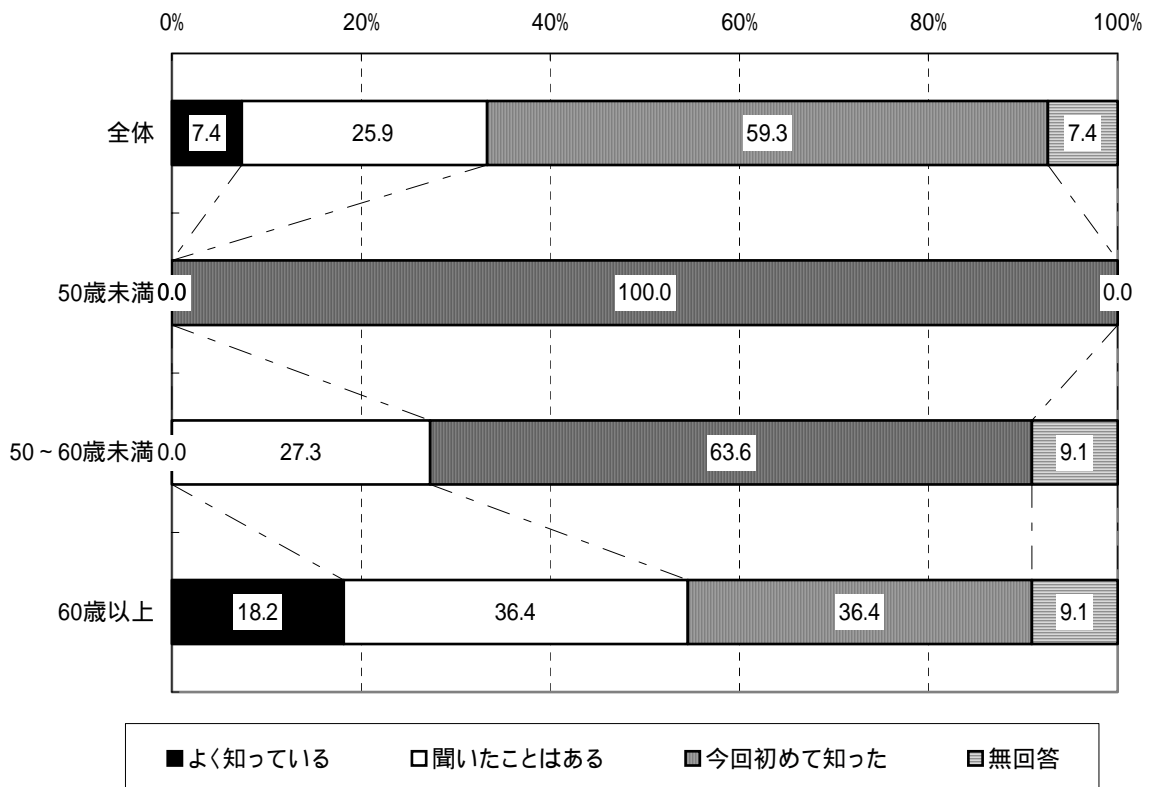
また、これを性別に見ると、「男性」では「今回初めて知った」の回答が68.2%であったのに対し、「女性」では同様の選択肢が20.0%となっており、「女性」のほうが、企業組合の認知度が高い結果となっている（図表16）。

図表 16 企業組合の認知度（性別）



また、年齢別に見ると、「よく知っている」と「聞いたことはある」を合わせた割合は、「50歳未満」でゼロ、「50～60歳未満」で27.3%、「60歳以上」で54.6%となっており、年齢層が高くなるにつれて、認知度も高くなっていることがわかる（図表 17）。

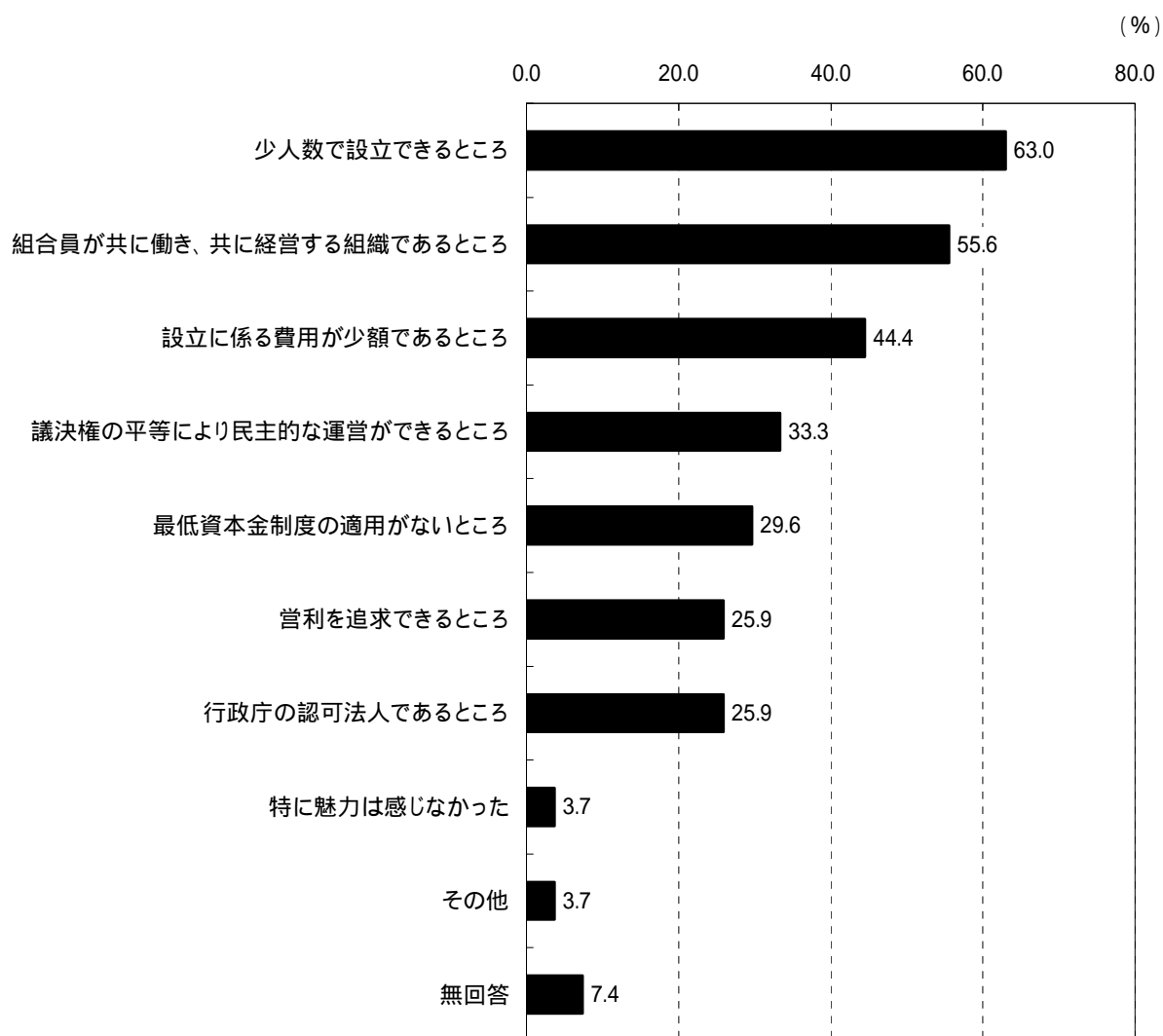
図表 17 企業組合の認知度（年齢別）



1 - 1 2 企業組合の魅力

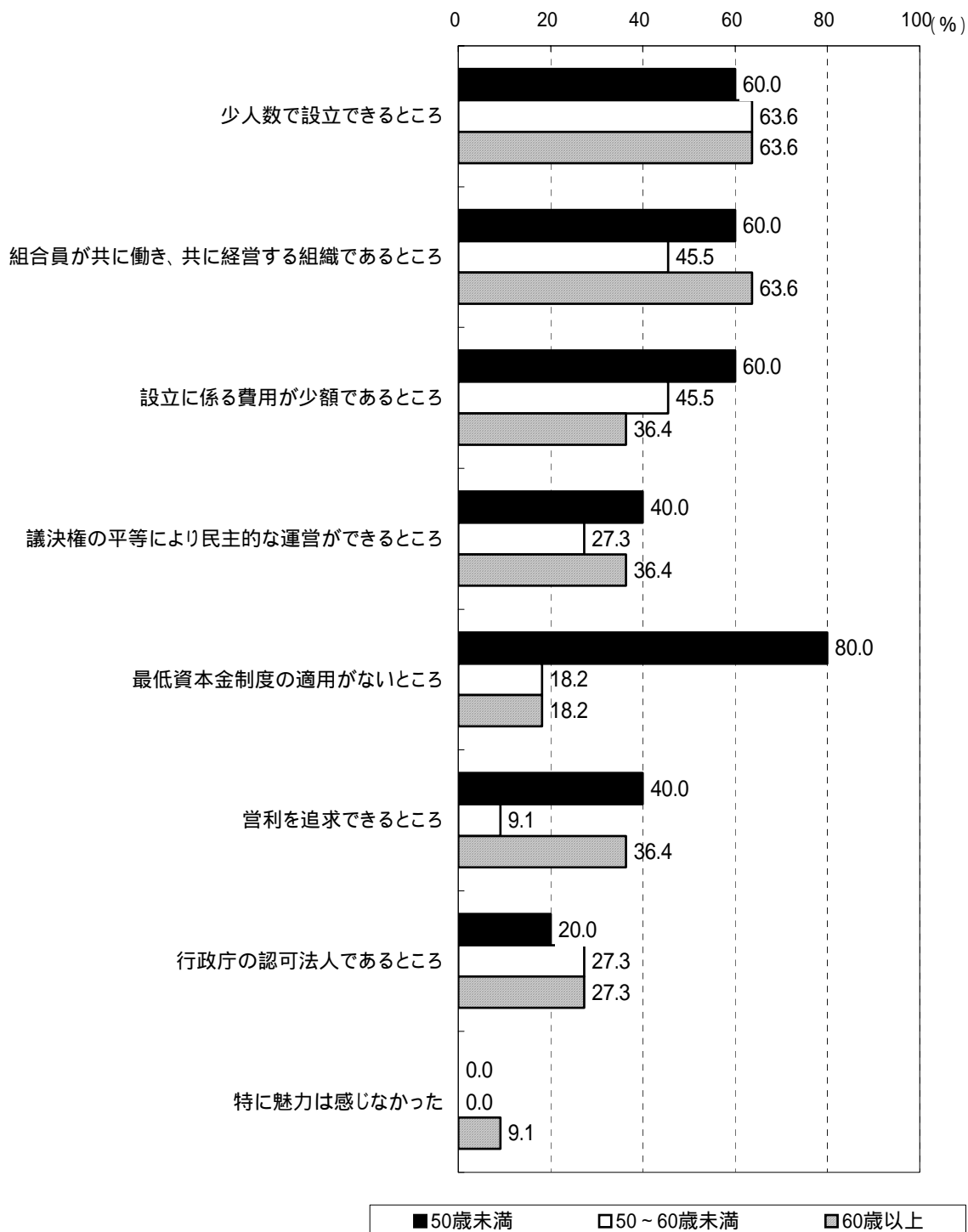
企業組合のどのような点に魅力を感じたかについて、複数回答で尋ねた。その結果、「少人数で設立できる場所」が63.0%と最も多く、以下「組合員が共に働き、共に経営する組織であるところ」(55.6%)、「設立に係る費用が少額であるところ」(44.4%)、「議決権の平等により民主的な運営ができる場所」(33.3%)といった回答が続く(図表18)。

図表18 企業組合の魅力



これを年齢別に見ると、「50歳未満」の比較的若い年齢層では、「設立に係る費用が少額であるところ」(60.0%)や「最低資本金制度の適用がないところ」(80.0%)など、金銭面のメリットを感じているという回答が多くなっている(図表19)。

図表19 企業組合の魅力(年齢別)

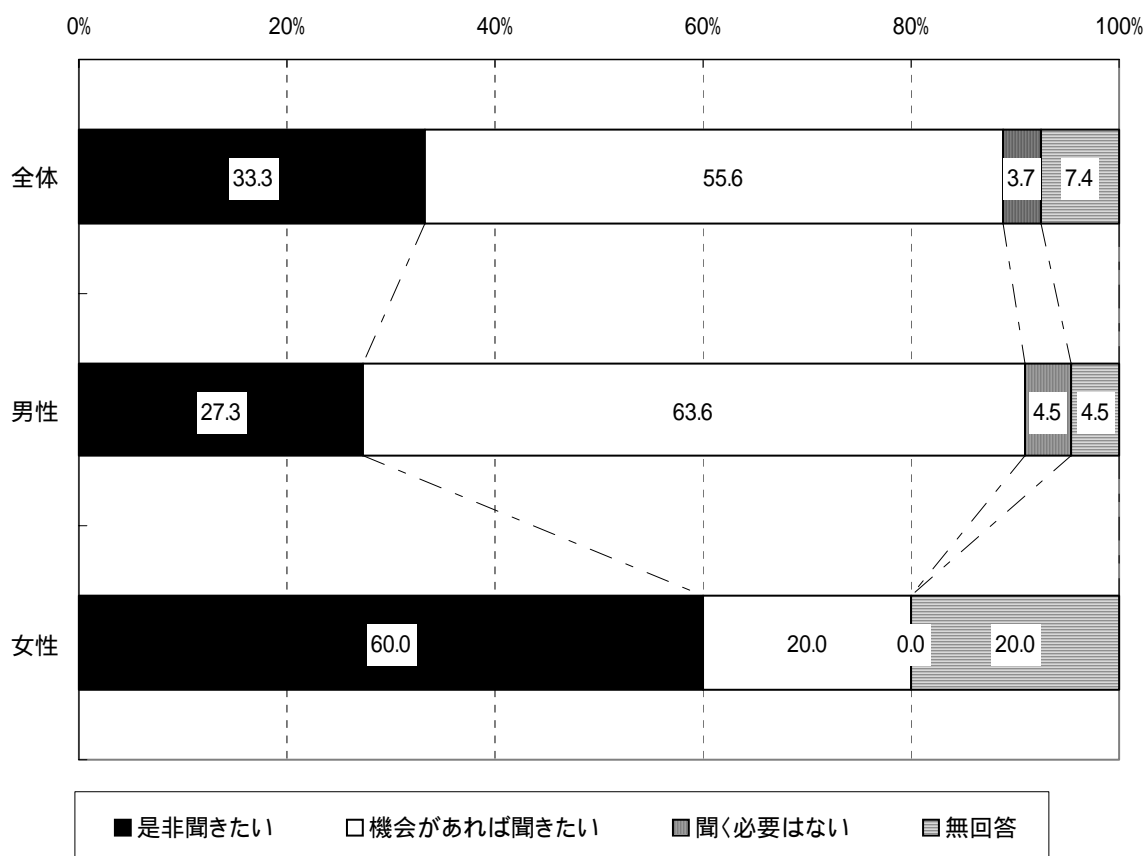


1 - 1 3 企業組合制度に対する詳しい説明

企業組合に対して、今回のセミナーよりもさらに詳しい説明を希望するかどうかを尋ねた。その結果、「是非聞きたい」が 33.3%、「機会があれば聞きたい」が 55.6%、「聞く必要はない」が 3.7%となっている。

これを性別にみると、「男性」に比べて「女性」の方が、「是非聞きたい」という回答が多くなっている（図表 20）。

図表 20 企業組合制度に対する詳しい説明（性別）



2 . 高齢者介護・障害者自立支援分野における起業化に関する実態調査結果

2 - 1 調査概要

調査目的：本調査は、本県における介護（高齢者介護・障害者自立支援）ビジネスに興味のある方の実情と傾向を把握することにより、適切な介護ビジネス起業化支援に役立てることを目的とする。

調査対象：「高齢者介護・障害者自立支援のための起業セミナー」の受講者 33 名

調査方法：調査票の直接配布・回収

調査時期：平成 17 年 9 月

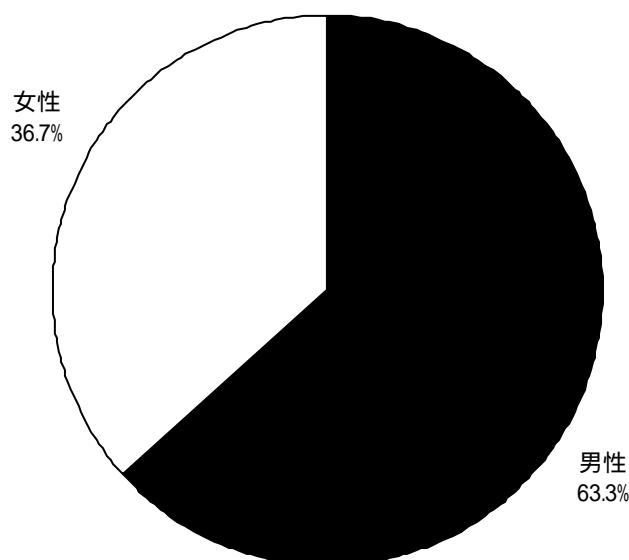
回収状況：有効回答数：30（回収率 90.9%）

集計分析：(株)茨城総合研究所

2 - 2 性別

回答者の性別は、「男性」が 63.3%、「女性」が 36.7%となっている（図表 1）。

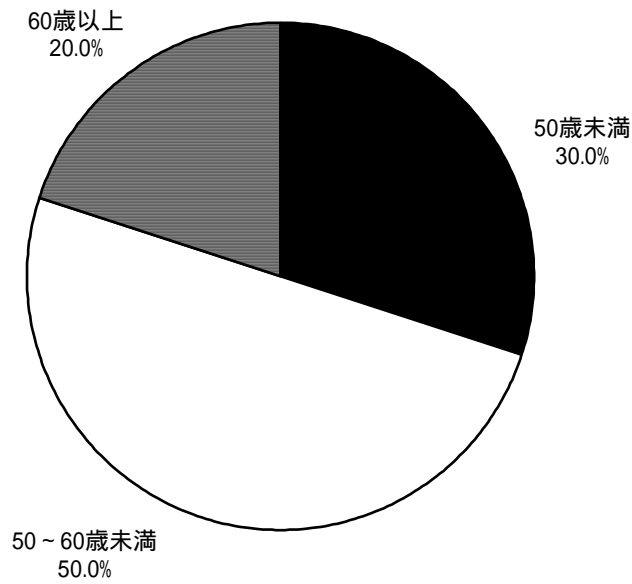
図表 1 性別



2 - 3 年齢

回答者の年齢は、「50歳未満」が 30.0%、「50～60歳未満」が 50.0%、「60歳以上」が 20.0%となっている。また、平均年齢は 50.9 歳であった（図表 2）。

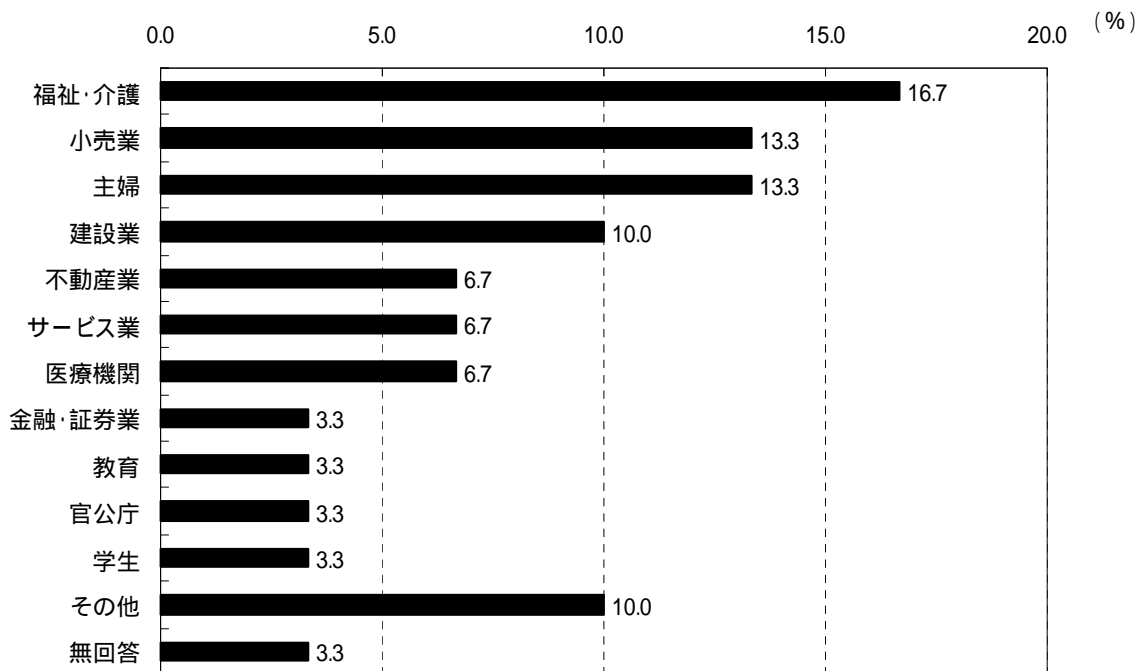
図表2 年齢



2 - 4 職業

回答者の現在の職業について尋ねた。その結果、「福祉・介護」が16.7%と最も多く、以下「小売業」「主婦」（共に13.3%）、「建設業」（10.0%）といった回答が続く（図表3）。

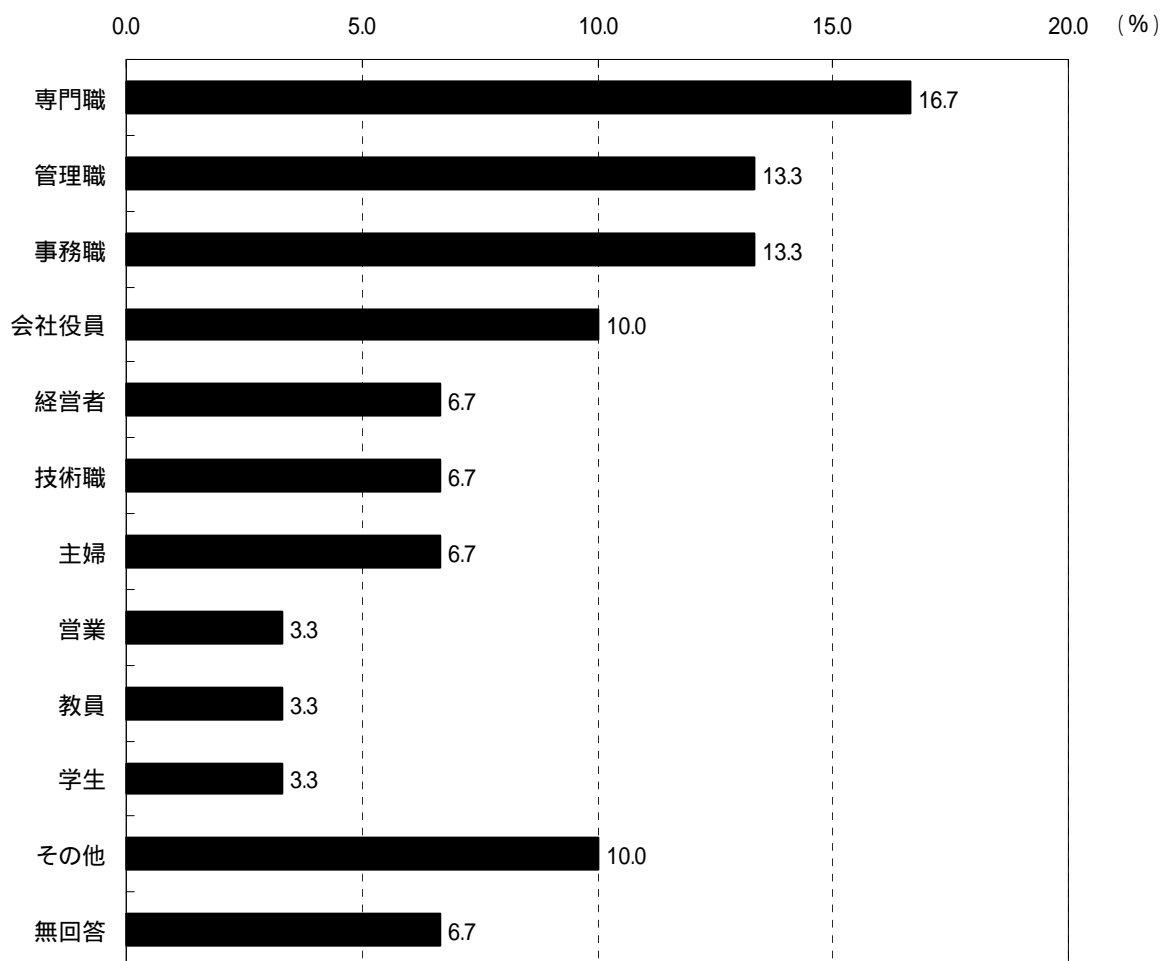
図表3 職業



2 - 5 職種

回答者の職種について尋ねたところ、「専門職」が16.7%と最も多く、以下「管理職」「事務職」(共に13.3%)、「会社役員」(10.0%)といった回答が続く(図表4)。

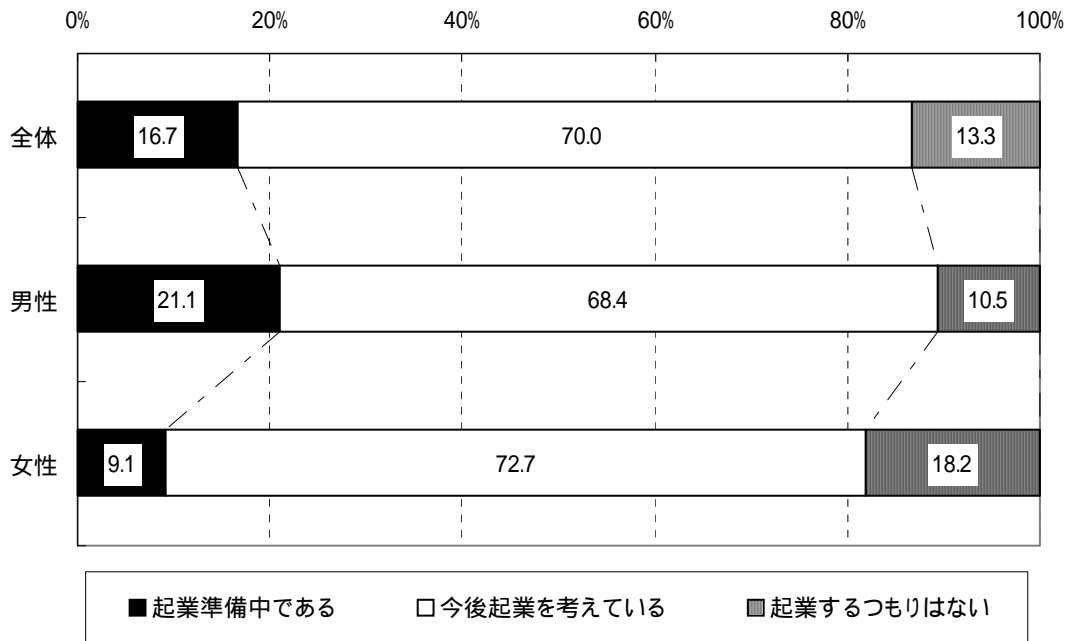
図表4 職種



2 - 6 起業の予定

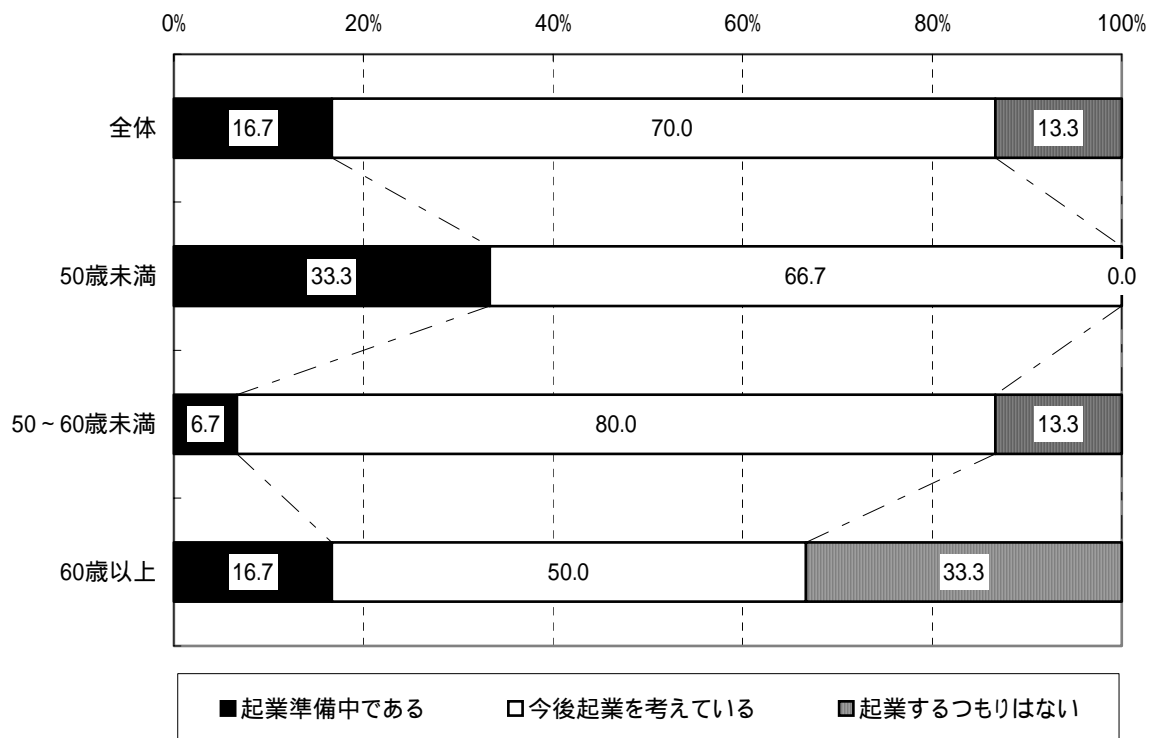
介護ビジネスを起業する予定(または意向)について尋ねた。その結果、「起業準備中である」が16.7%、「今後起業を考えている」が70.0%、「起業するつもりはない」が13.3%であった。これを性別にみると、「女性」と比べて「男性」のほうが「起業準備中である」の回答割合が高くなっている(図表5)。

図表5 起業の予定（性別）



また、年齢別にみると「50歳未満」の年齢層で「起業準備中である」割合が高く、年齢層が上がるにつれて「起業するつもりはない」の割合が高くなっていることわかる（図表6）。

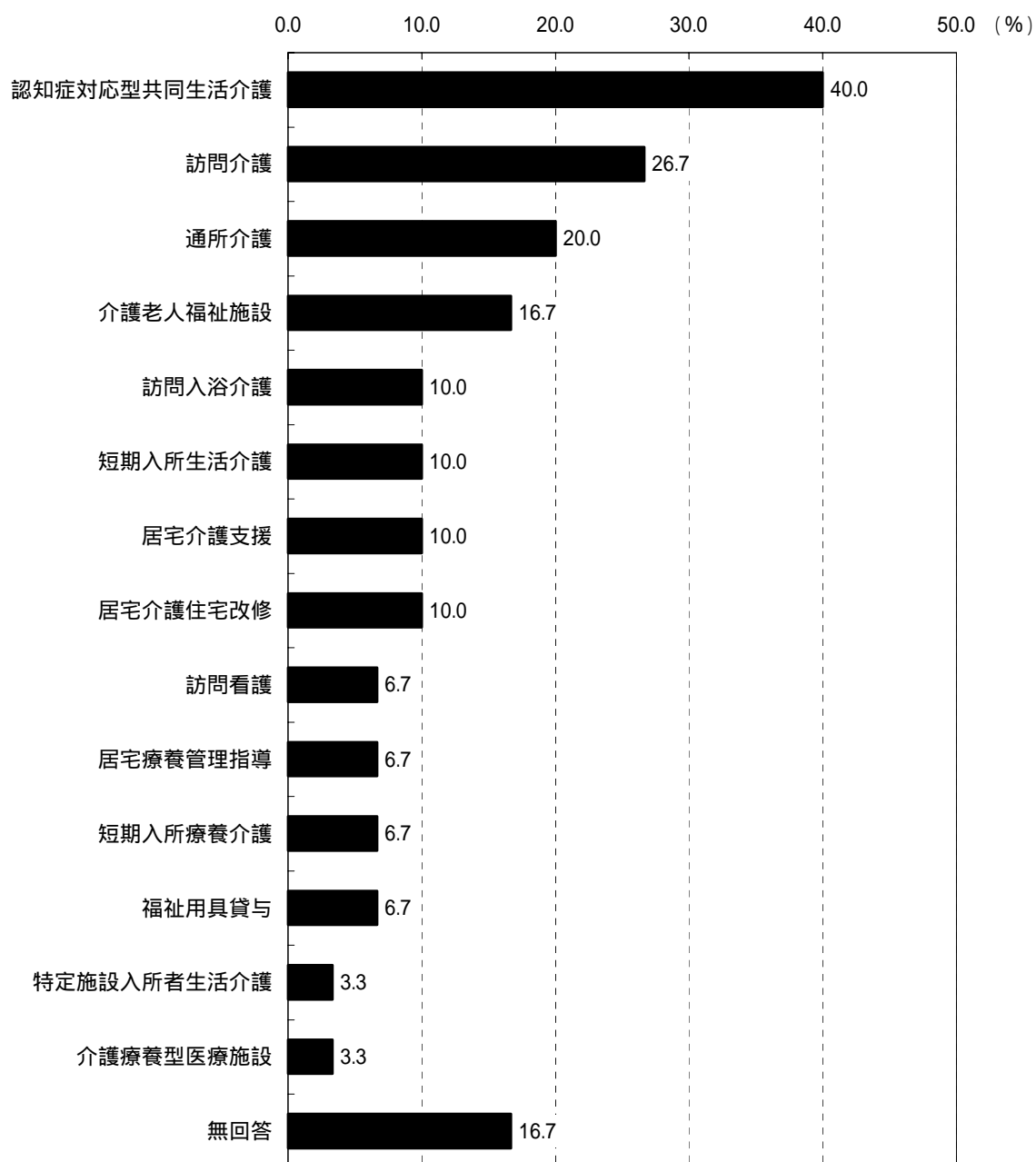
図表6 起業の予定（年齢別）



2 - 7 高齢者介護の種類

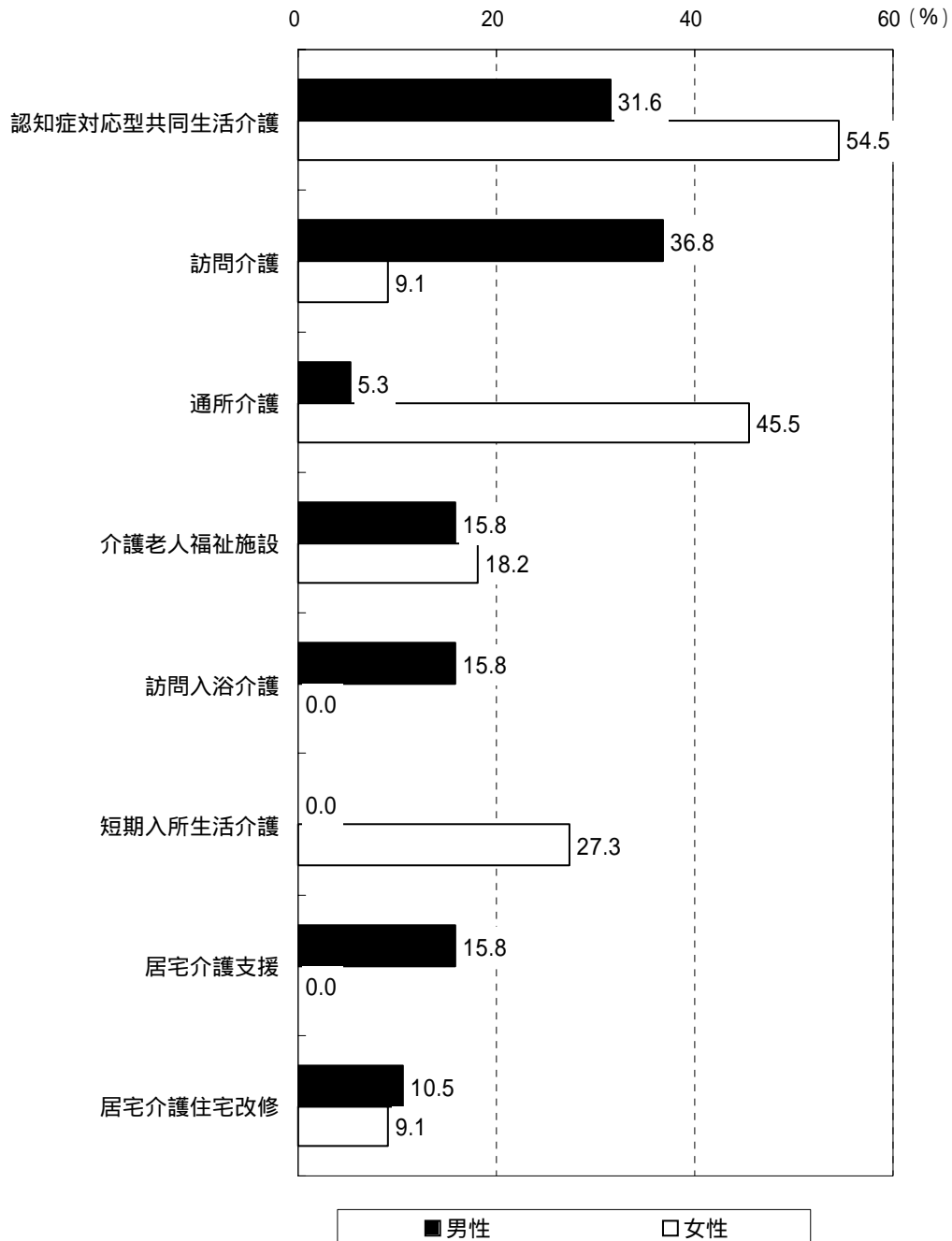
起業することによって行う(行いたい)高齢者介護の種類について複数回答で尋ねた。その結果、「認知症対応型共同生活介護」が40.0%と最も多く、以下「訪問介護」(26.7%)、「通所介護」(20.0%)、「介護老人福祉施設」(16.7%)といった回答が続く(図表7)。

図表7 高齢者介護の種類



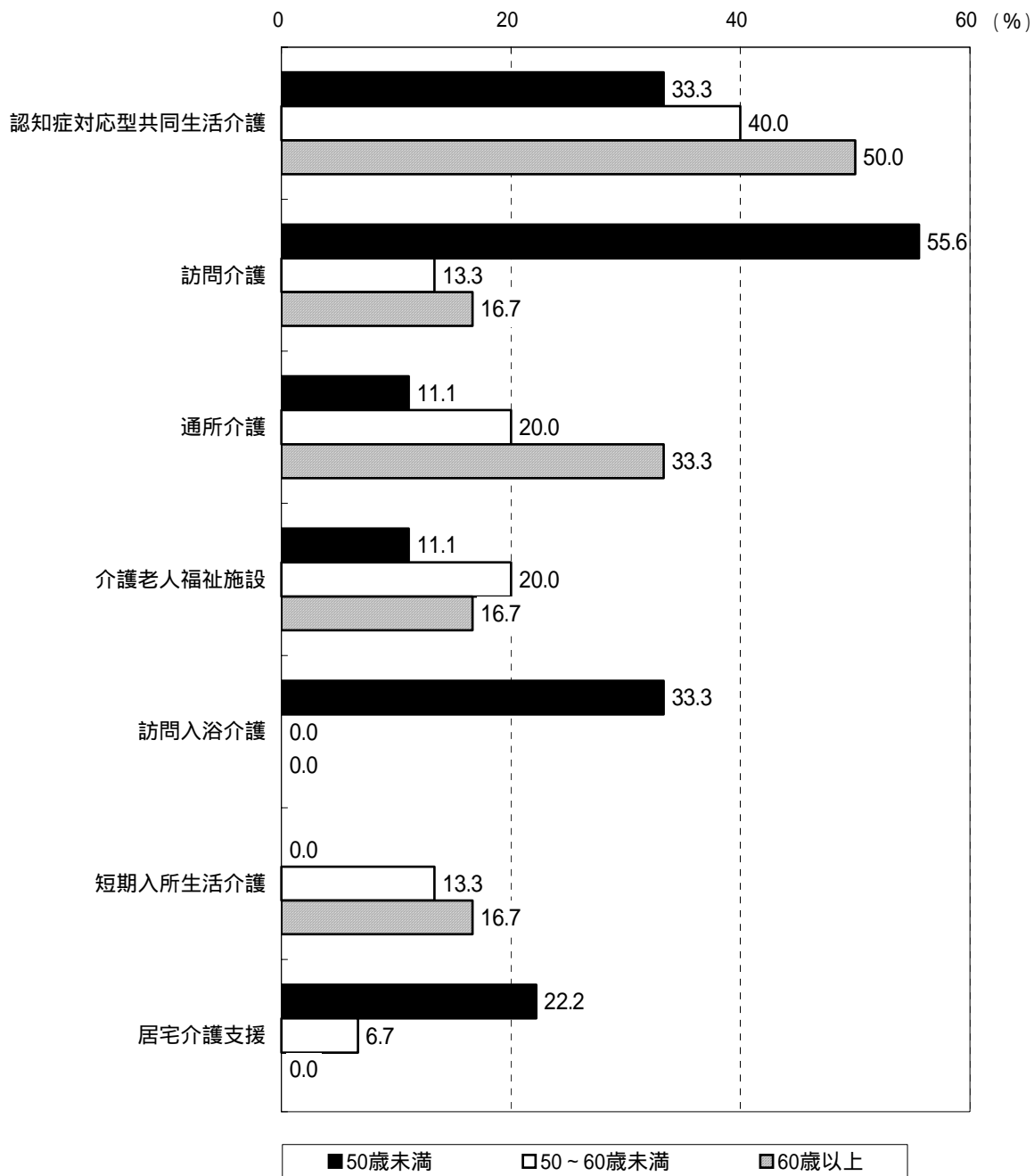
このうち、上位の項目について性別に見てみると、「男性」では「訪問介護」(36.8%)や「訪問入浴介護」(15.8%)、「居宅介護支援」(15.8%)等の回答割合が比較的高く、「女性」では「認知症対応型共同生活介護」(54.5%)、「通所介護」(45.5%)、「短期入所生活介護」(27.3%)等の回答割合が高くなっている(図表8)。

図表8 高齢者介護の種類(性別)



また、年齢別に見ると、「50歳未満」では「訪問介護」(55.6%)、「訪問入浴介護」(33.3%)、「居宅介護支援」(22.2%)といった回答割合が高く、「60歳以上」では「認知症対応型共同生活介護」(50.0%)、「通所介護」(33.3%)等の回答割合が高くなっている(図表9)。

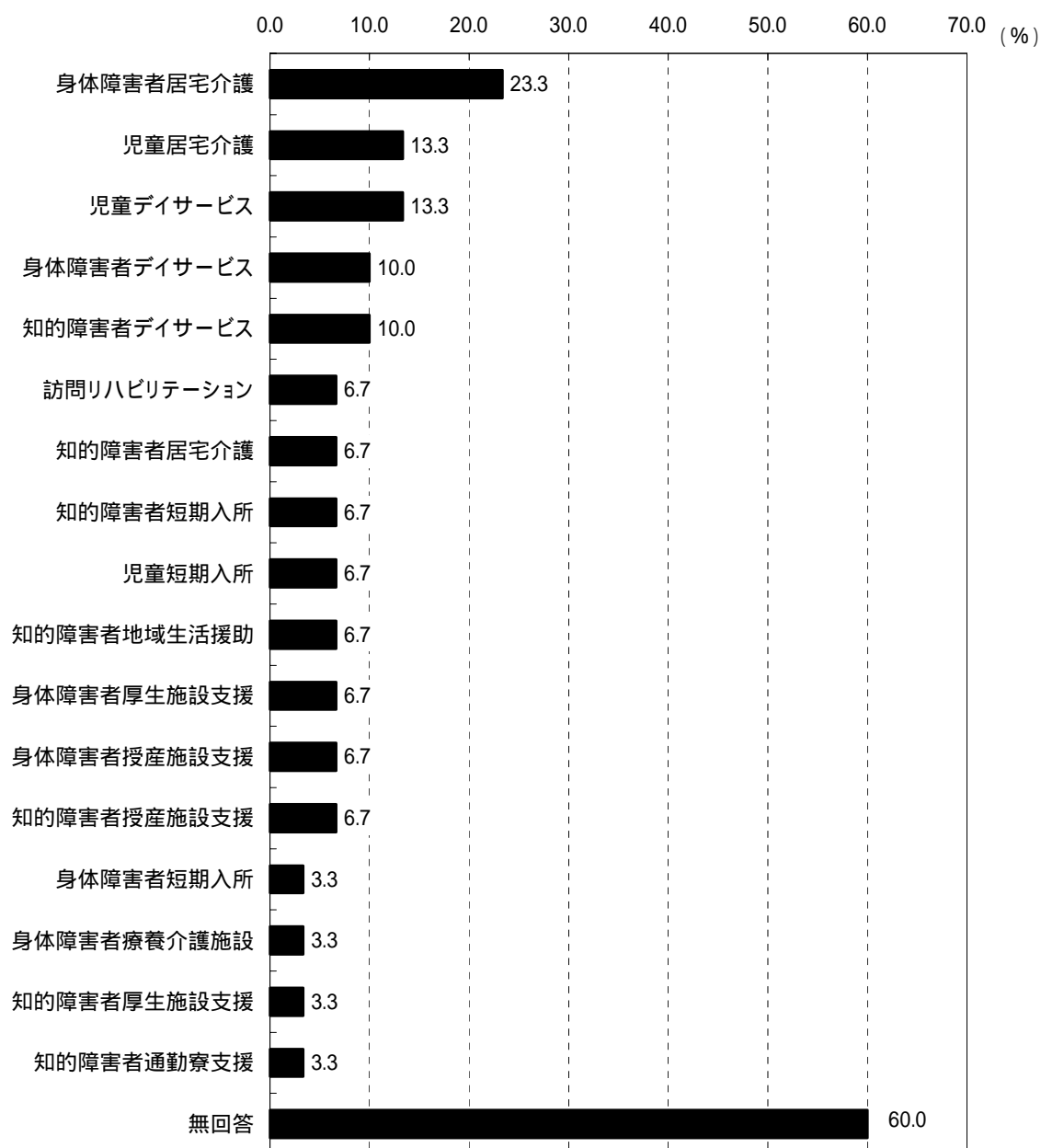
図表9 高齢者介護の種類(年齢別)



2 - 8 障害者支援の種類

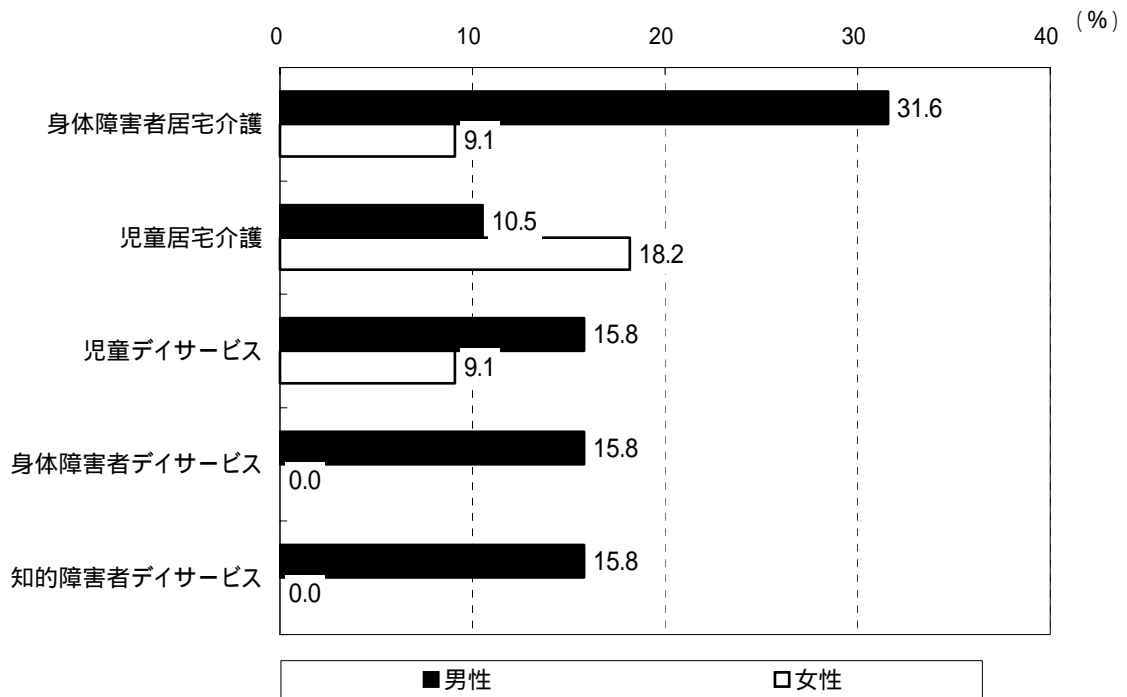
起業により行う(または行いたい)障害者支援の種類を複数回答で尋ねた。その結果、「身体障害者居宅介護」が23.3%、「児童居宅介護」および「児童デイサービス」がともに13.3%、「身体障害者デイサービス」および「知的障害者デイサービス」がともに10.0%を占めている。また、「無回答」も60.0%あった(図表10)。

図表10 障害者支援の種類



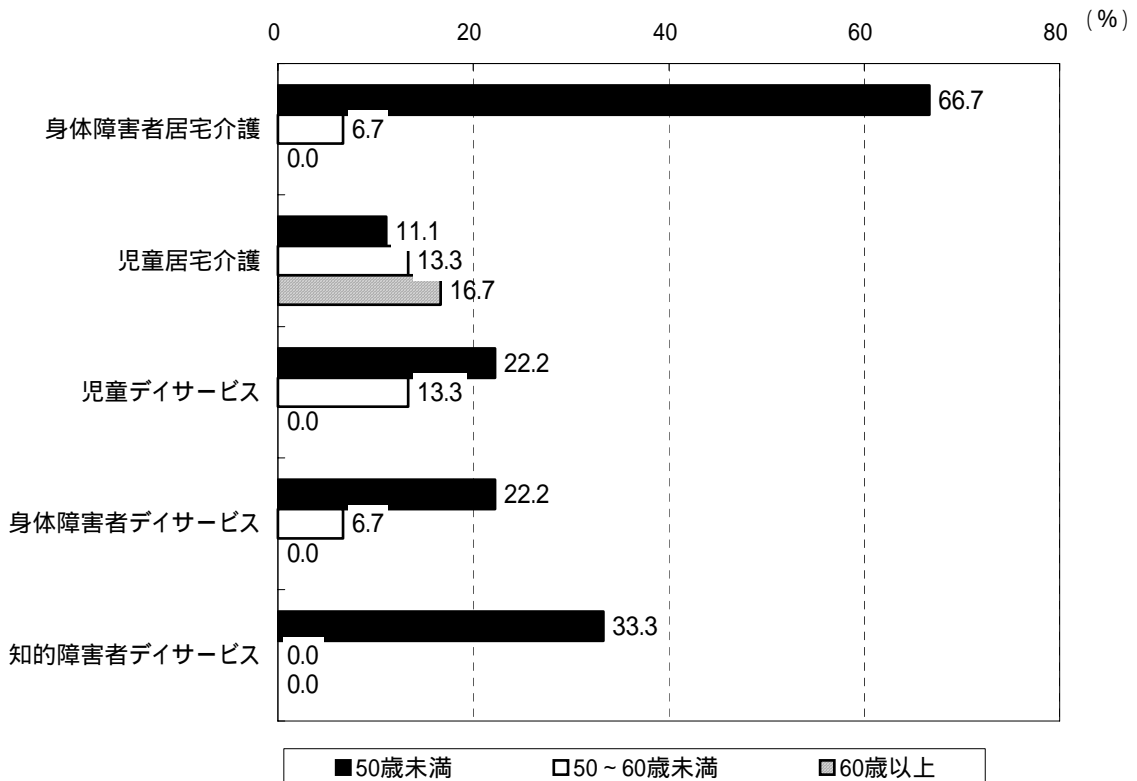
このうち、上位の項目について性別に見ると、「男性」では「身体障害者居宅介護」(31.6%)、「児童デイサービス」「身体障害者デイサービス」「知的障害者デイサービス」(ともに15.8%)が多く、「女性」では「児童居宅介護」(18.2%)が多くなっている(図表11)。

図表 11 障害者支援の種類（性別）



また、年齢別に見ると、「50歳未満」では「身体障害者居宅介護」（66.7%）、「児童デイサービス」、「身体障害者デイサービス」（ともに22.2%）、「知的障害者デイサービス」（33.3%）といった回答が多くなっているのが目立つ（図表12）。

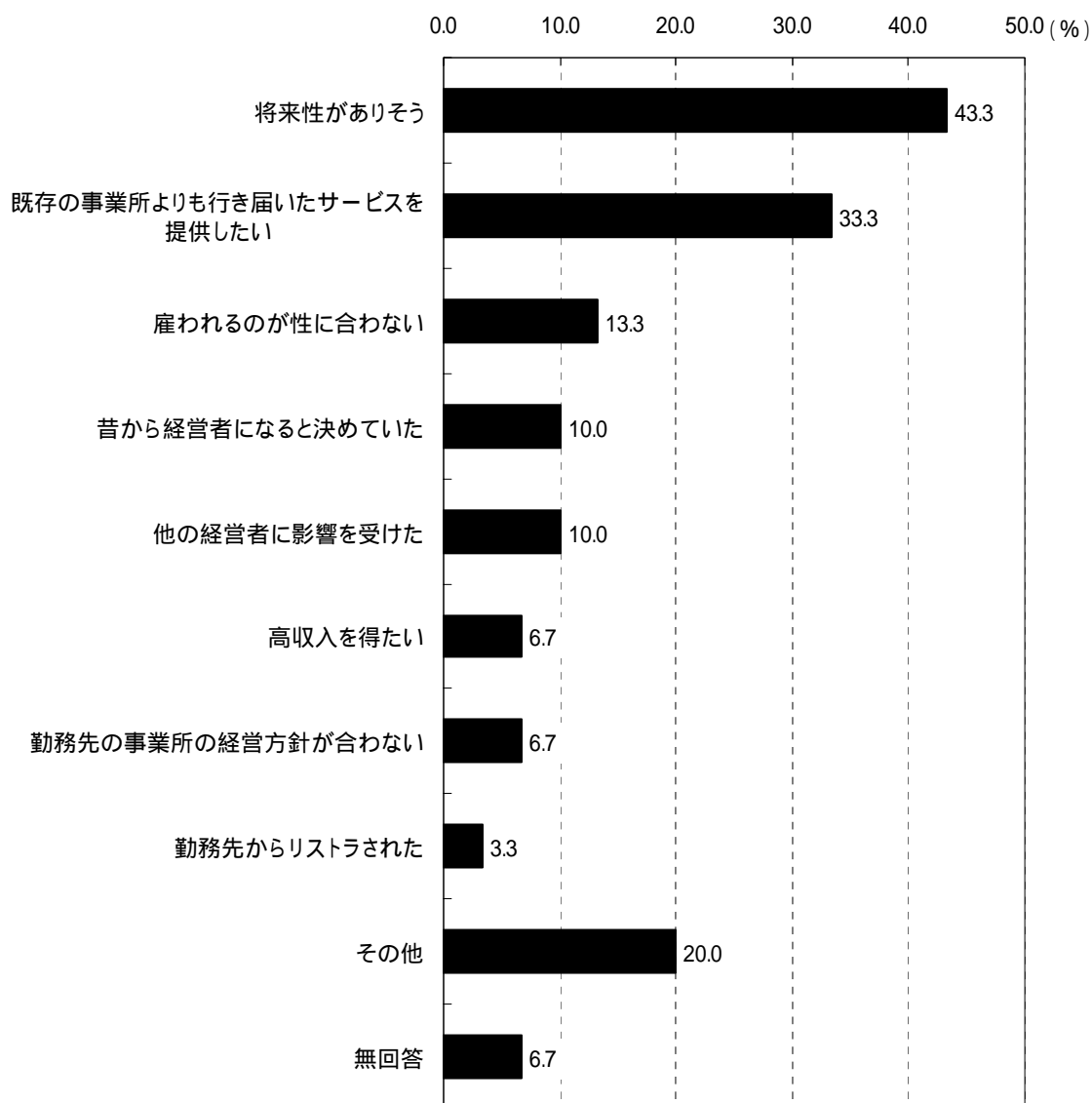
図表 12 障害者支援の種類（年齢別）



2 - 9 起業の動機

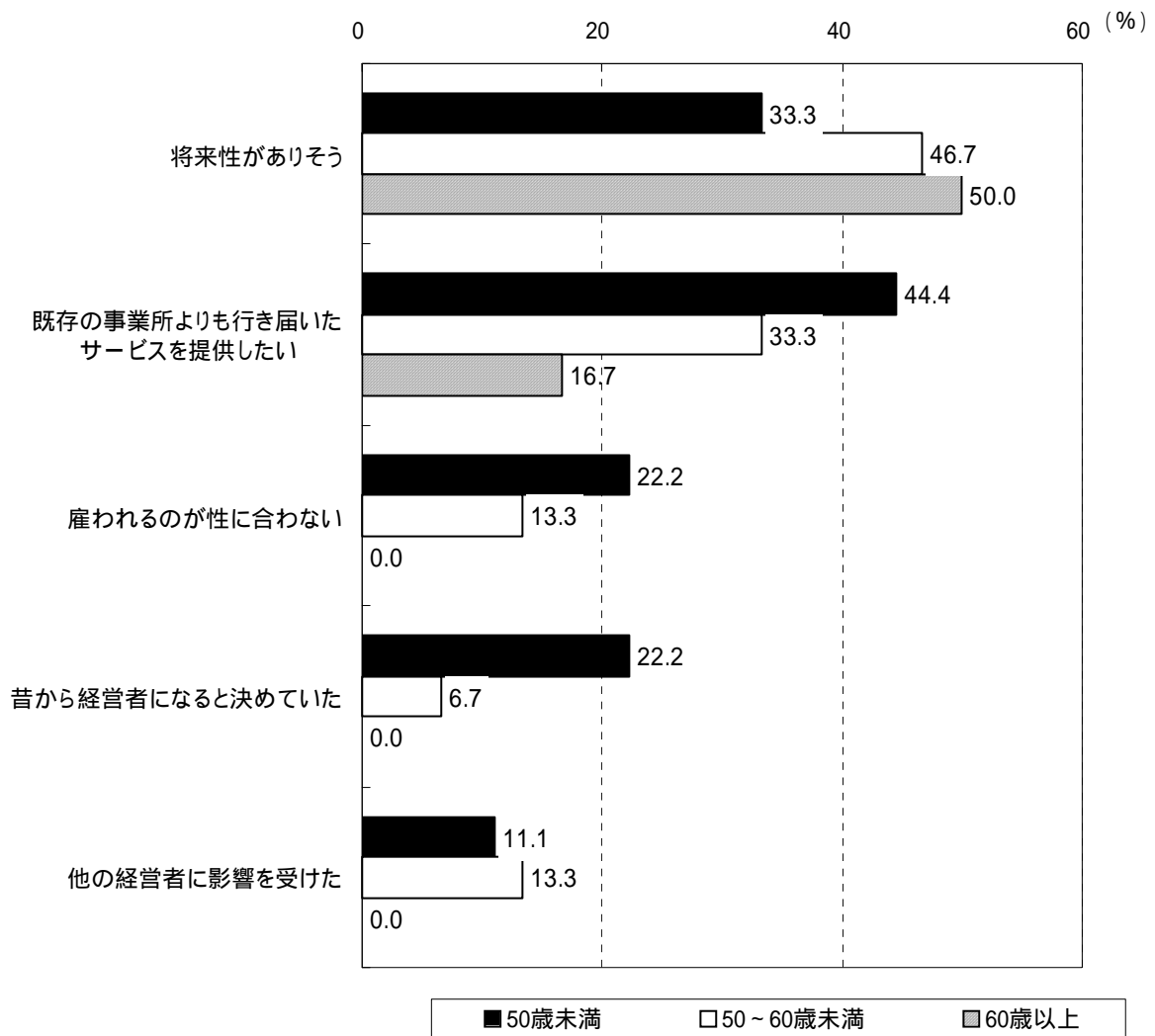
起業の動機について複数回答で尋ねた。その結果、「将来性がありそう」が 43.3%と最も多く、以下「既存の事業所よりも行き届いたサービスを提供したい」(33.3%)、「雇われるのが性に合わない」(13.3%)、「昔から経営者になると決めていた」「他の経営者の影響を受けた」(ともに10.0%)といった回答が続く(図表13)。

図表13 起業の動機



これを年齢別にみると、年齢層が高くなるほど「将来性がありそう」の回答割合が高く、「既存の事業所よりも行き届いたサービスを提供したい」では、年齢層が低いほど回答割合が高くなっていることがわかる。また、「50歳未満」の年齢層では、「雇われるのが性に合わない」や「昔から経営者になると決めていた」といった回答が比較的多くなっている（図表14）。

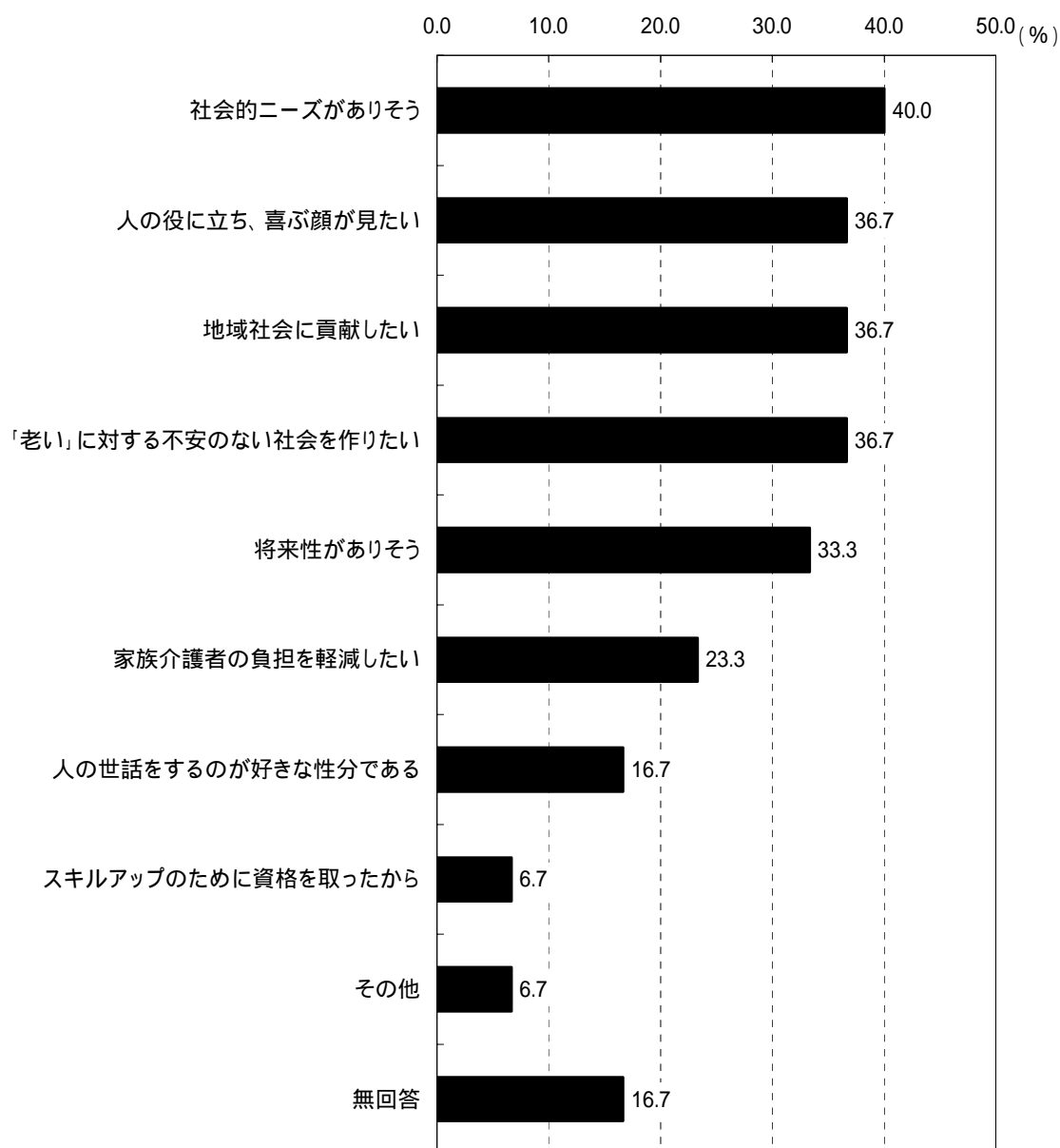
図表14 起業の動機（年齢別）



2 - 10 介護ビジネスを選んだ理由

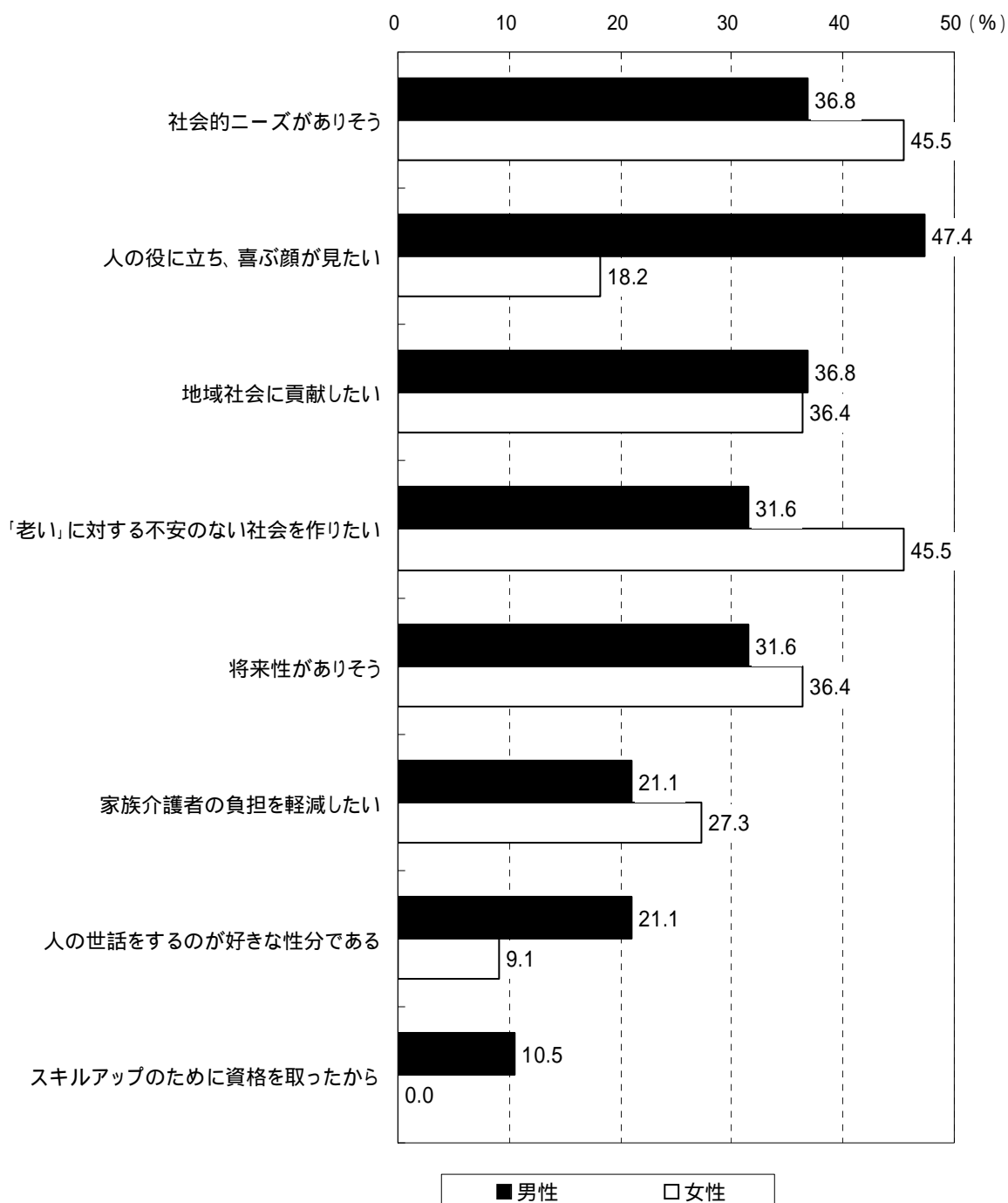
起業するにあたって、事業内容として介護ビジネスを選んだ理由を複数回答で尋ねた。その結果、「社会的ニーズがありそう」が40.0%と最も多く、以下「人の役に立ち、喜ぶ顔が見たい」「地域社会に貢献したい」「「老い」に対する不安のない社会を作りたい」(いずれも36.7%)、「将来性がありそう」(33.3%)、「家族介護者の負担を軽減したい」(23.3%)といった回答が続く(図表15)。

図表15 介護ビジネスを選んだ理由



これを性別に見ると、「男性」では「人の役に立ち、喜ぶ顔が見たい」(47.4%)や「人の世話をするのが好きな性分である」(21.1%)等の回答が比較的多く、「女性」では「社会的ニーズがありそう」(45.5%)や「「老い」に対する不安のない社会を作りたい」(45.5%)といった回答が多くなっている(図表16)。

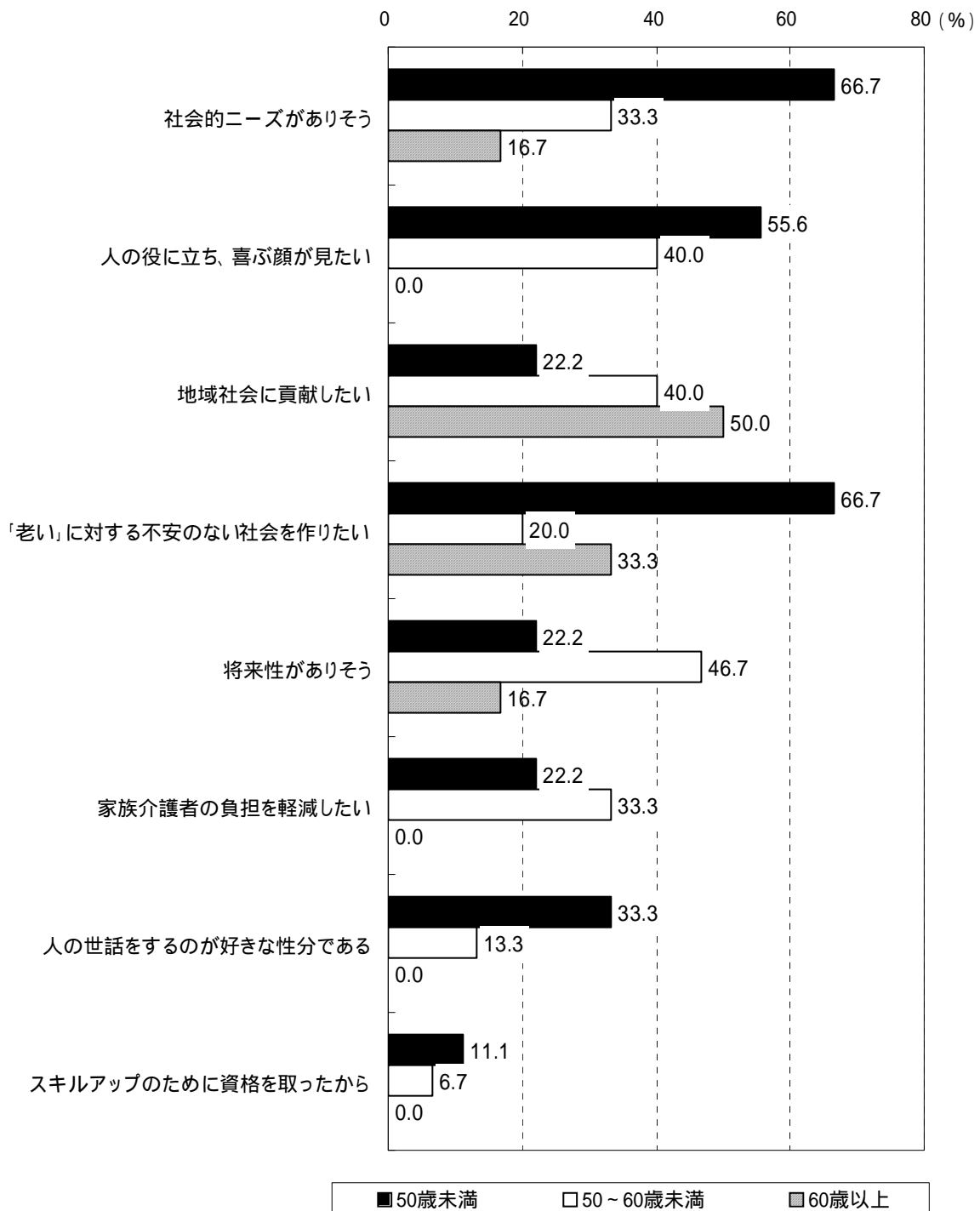
図表16 介護ビジネスを選んだ理由(性別)



また、年齢別にみると「社会的ニーズがありそう」や「人の役に立ち、喜ぶ顔が見たい」といった選択肢は年齢層が低いほど、「地域社会に貢献したい」という選択肢は年齢層が高いほど、それぞれ回答が多くなっている。

そのほか、「50歳未満」では「老いに対する不安のない社会を作りたい」(66.7%)、「人の世話をするのが好きな性分である」(33.3%)などが、「50～60歳未満」では「将来性がありそう」(46.7%)や「家族介護者の負担を軽減したい」(33.3%)といった回答が比較的多くなっている(図表17)。

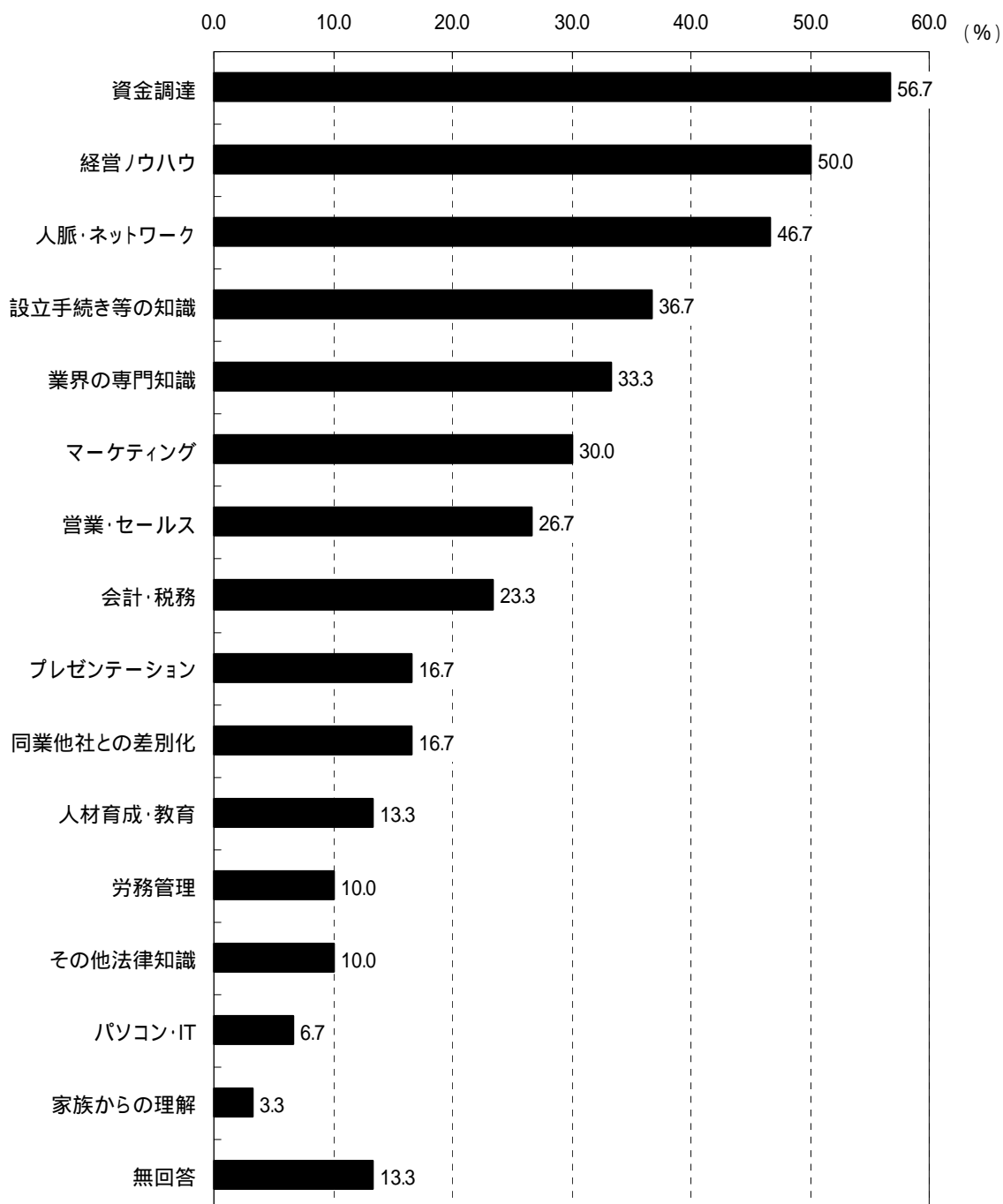
図表17 介護ビジネスを選んだ理由(年齢別)



2 - 1 1 「足りない」または「不安」な要素

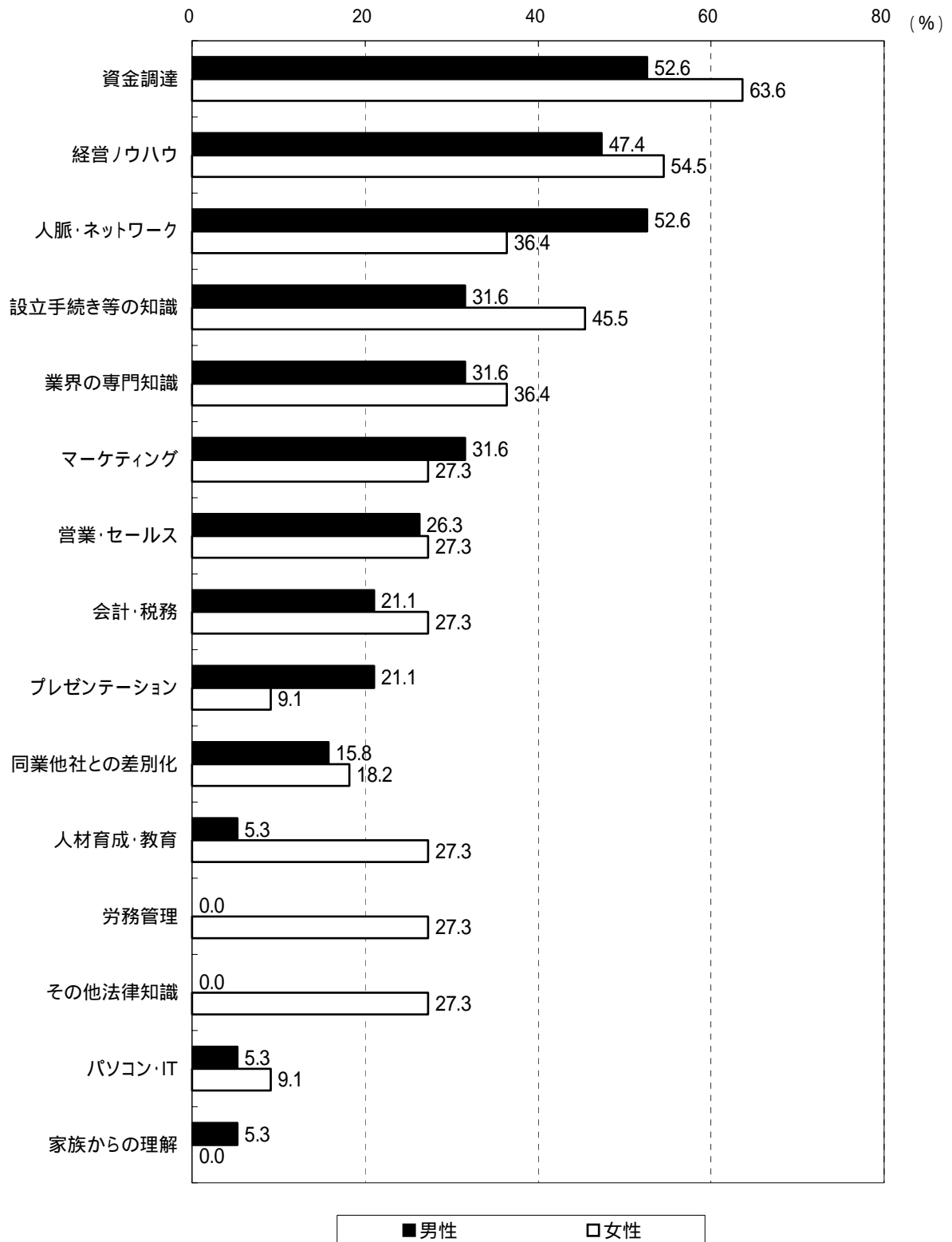
起業するにあたって、どのような要素が「足りない」あるいは「不安」と感じるかを複数回答で尋ねた。その結果、「資金調達」が56.7%と最も多く、以下「経営ノウハウ」(50.0%)、「人脈・ネットワーク」(46.7%)、「設立手続き等の知識」(36.7%)、「業界の専門知識」(33.3%)、「マーケティング」(30.0%)といった回答が続く(図表18)。

図表18 「足りない」または「不安」な要素



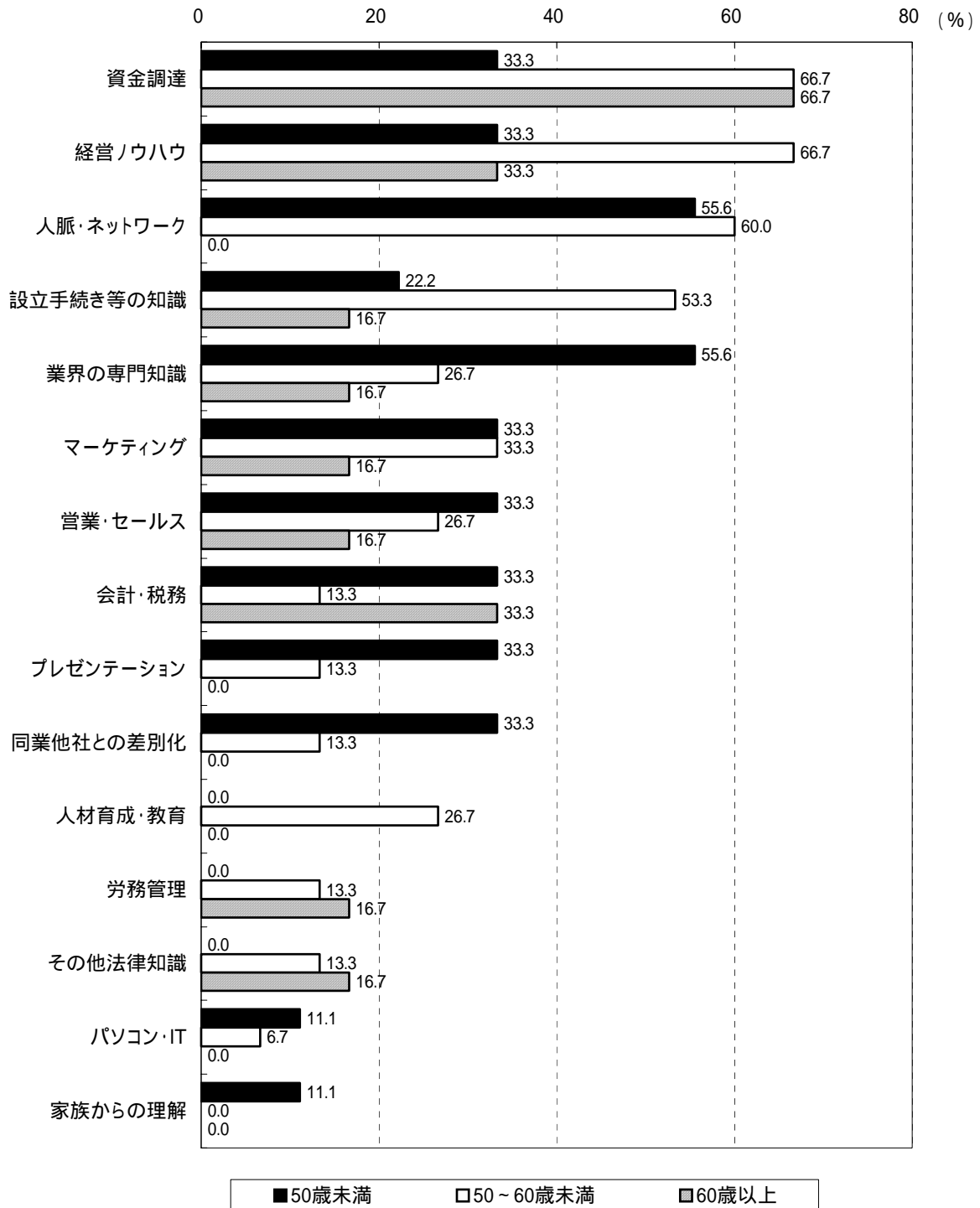
これを性別にみると、全体的に「女性」のほうが、「足りない」あるいは「不安」と感じている項目が多く、とくに、資金面や各種手続き、法知識、人材育成、労務管理といった点について、知識不足や不安を感じている様子が窺える（図表19）。

図表19 「足りない」または「不安」な要素（性別）



また、年齢別にみると、「50歳未満」では「人脈・ネットワーク」(55.5%)や「業界の専門知識」(55.6%)、「マーケティング」「営業・セールス」「会計・税務」「プレゼンテーション」「同業他社との差別化」(いずれも33.3%)等の回答が多く、「50～60歳未満」では「資金調達」「経営ノウハウ」(共に66.7%)「人脈・ネットワーク」(60.0%)「設立手続き等の知識」(53.3%)「人材育成・教育」(26.7%)等が、「60歳以上」では「資金調達」(66.7%)「会計・税務」(33.3%)といった回答が多くなっている(図表20)。

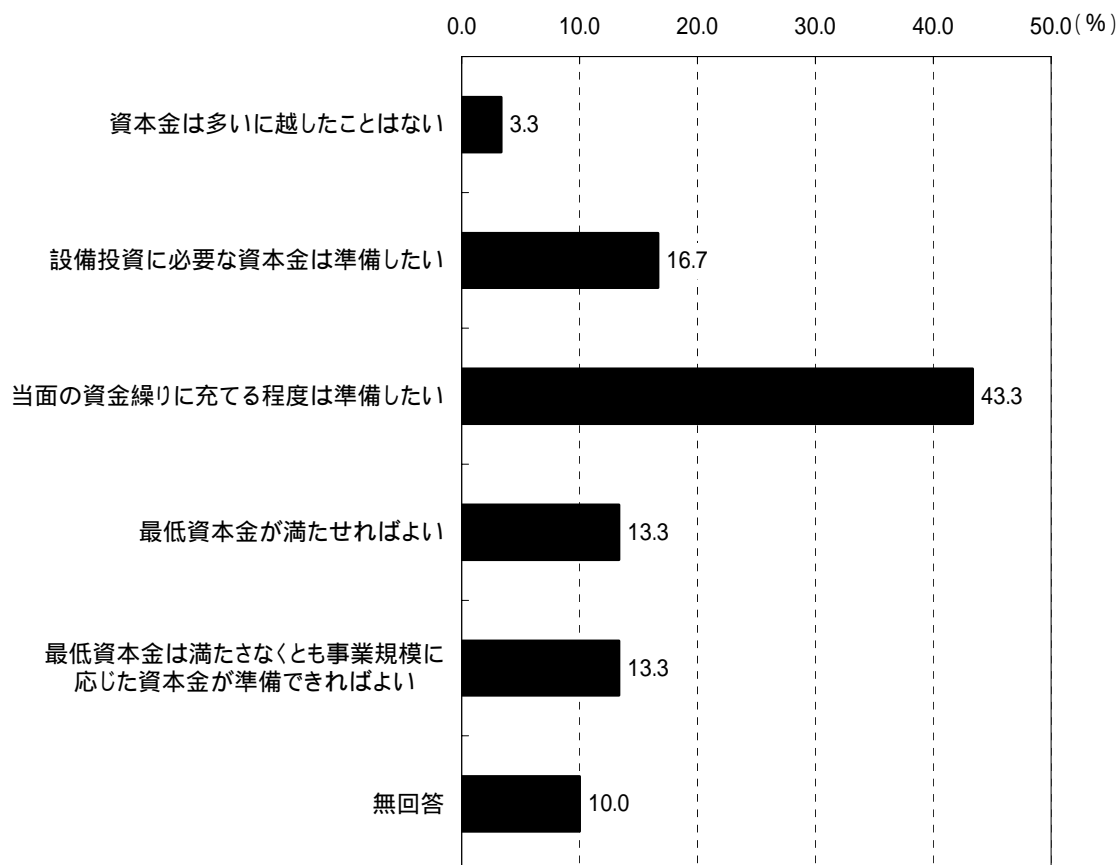
図表20 「足りない」または「不安」な要素(年齢別)



2 - 1 2 資本金について

資本金についての考え方を尋ねた。その結果、「資本金は多いに越したことはない」が 3.3%、「設備投資に必要な資本金は準備したい」が 16.7%、「当面の資金繰りに充てる程度は準備したい」が 43.3%、「最低限資本金が満たせればよい」が 13.3%、「最低資本金は満たさなくとも事業規模に応じた資本金が準備できればよい」が 13.3%であった（図表 21）。

図表 21 資本金について

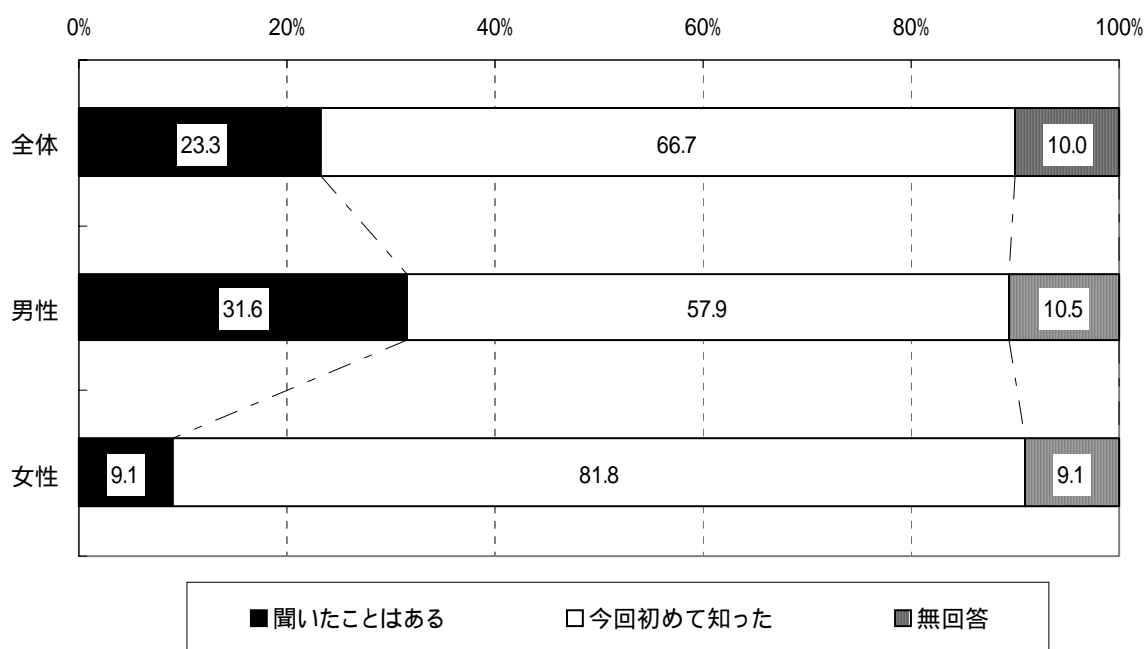


2 - 1 3 企業組合の認知度

企業組合についての認知度を尋ねたところ、「よく知っている」という回答はゼロで、「聞いたことはある」が 23.3%、「今回初めて知った」が 66.7%となっている。

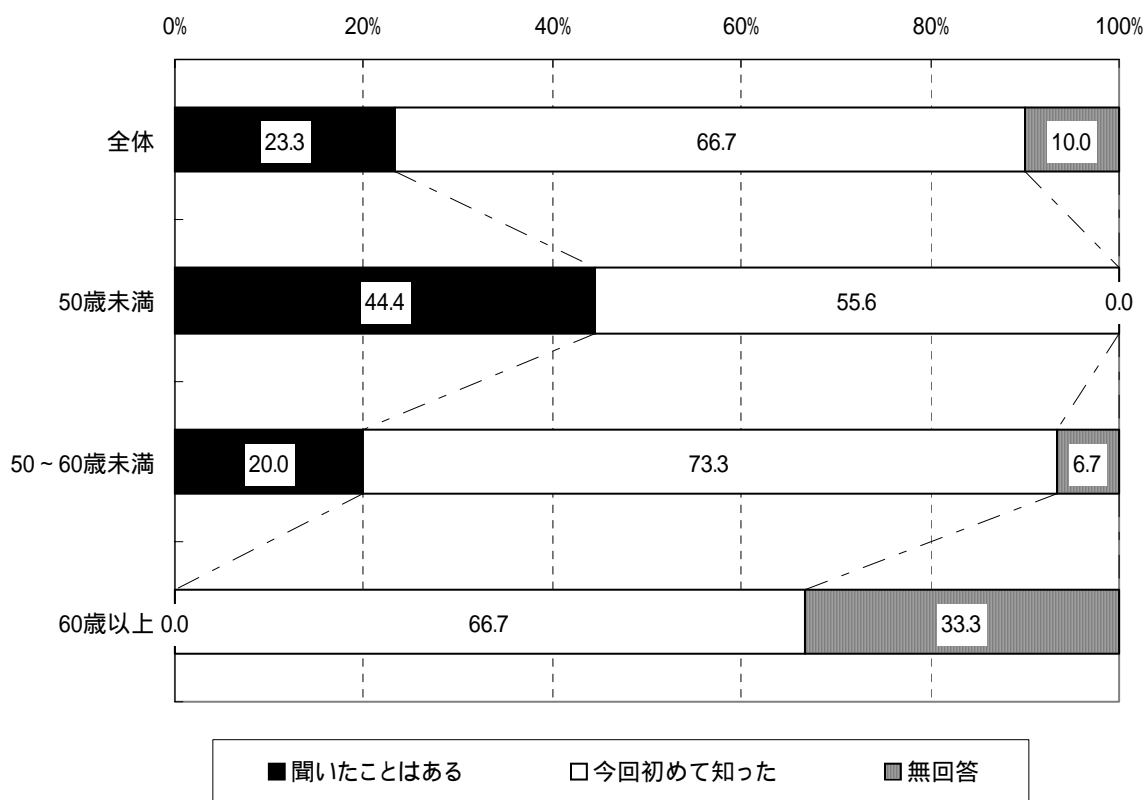
また、これを性別に見ると、「男性」で「聞いたことがある」割合が 31.6%であったのに対し、「女性」では 9.1%となっており、「男性」の方が、企業組合に対する認知度が高いことがわかる（図表 22）。

図表 22 企業組合の認知度（性別）



また、年齢別に見ると、年齢層が低いほど「聞いたことはある」割合が高く、「50歳未満」では44.4%、「50～60歳未満」では20.0%、「60歳以上」ではゼロとなっている（図表 23）。

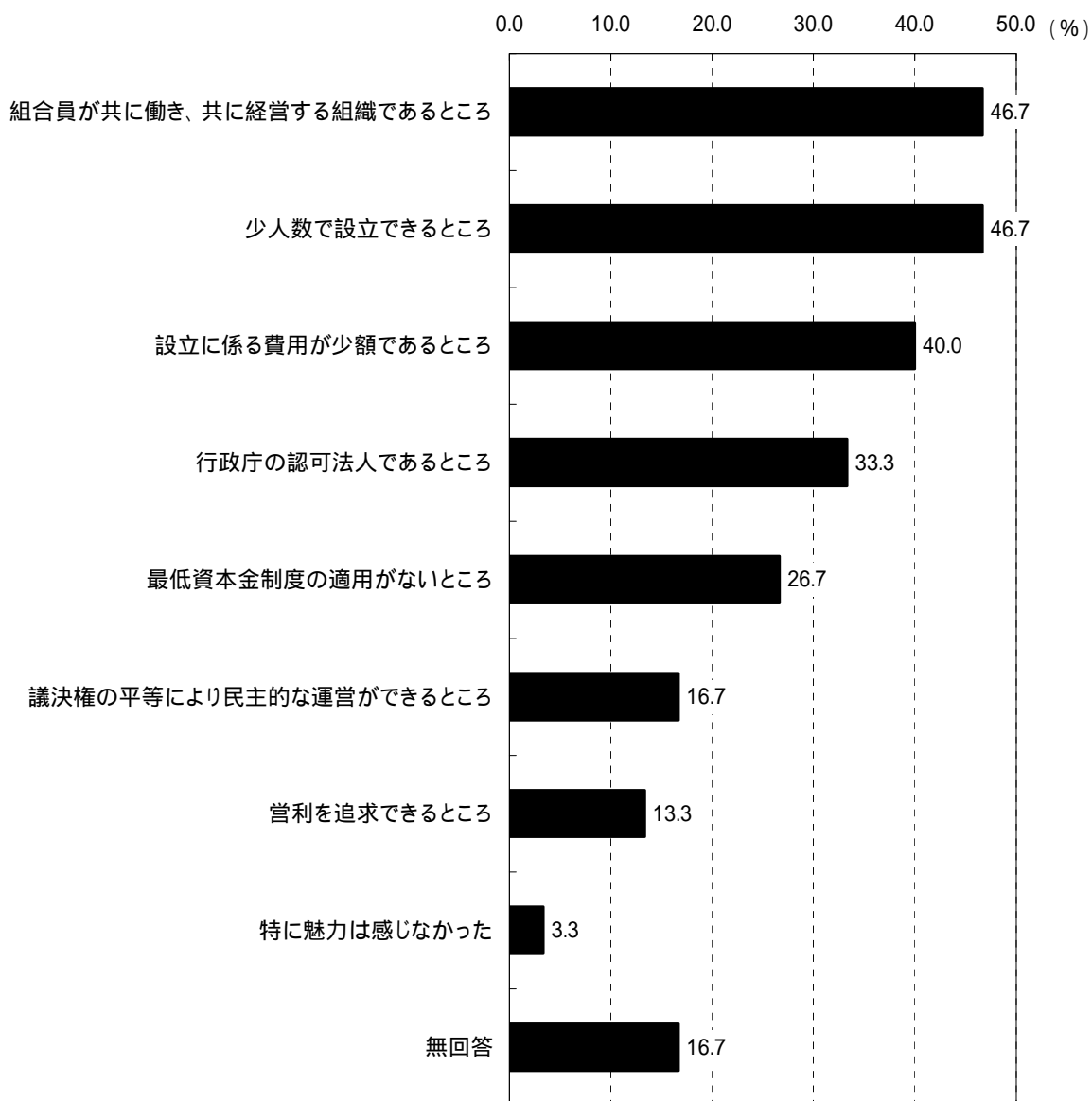
図表 23 企業組合の認知度（年齢別）



2 - 1 4 企業組合の魅力

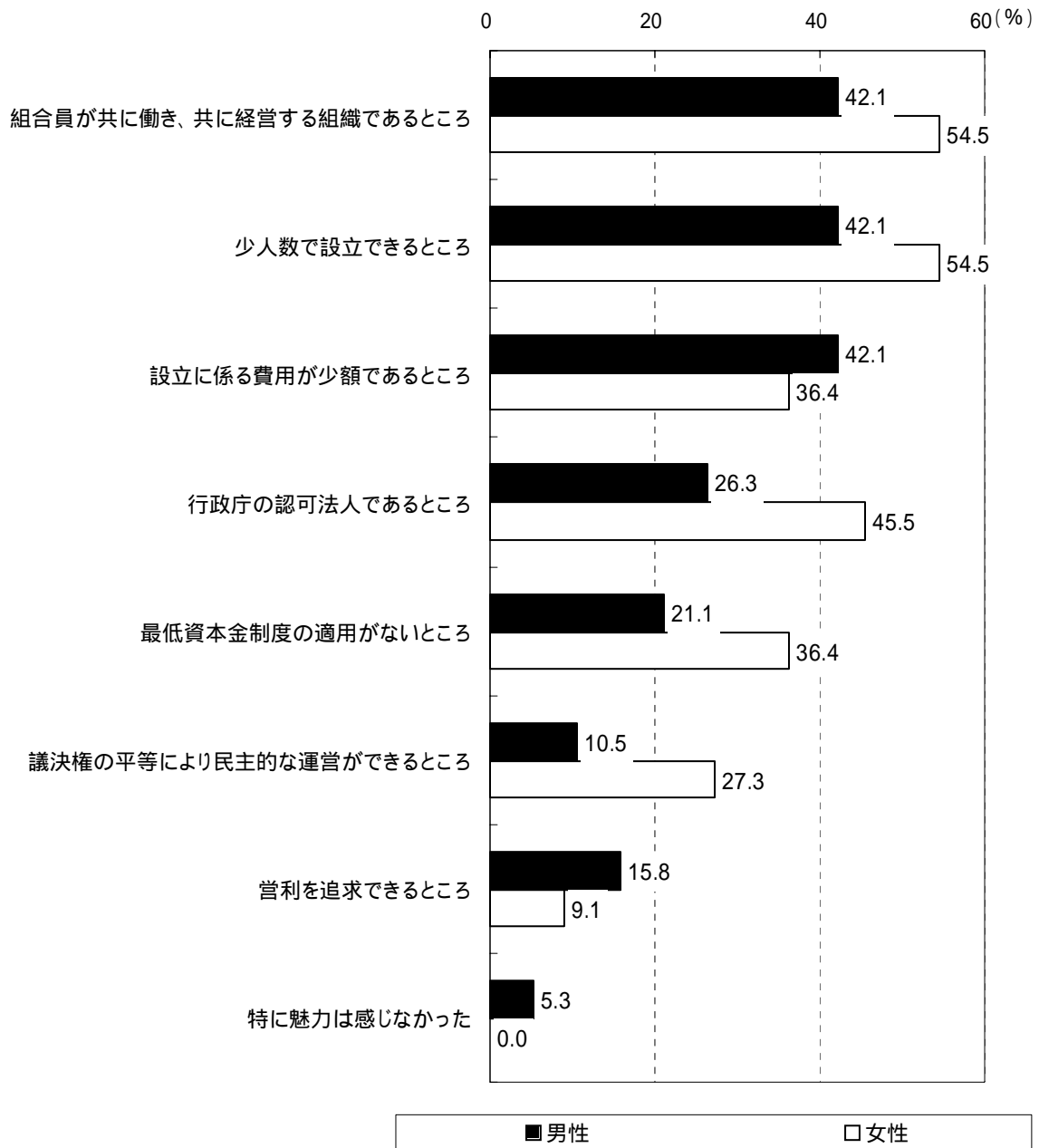
企業組合のどのような点に魅力を感じたかについて、複数回答で尋ねた。その結果「組合員が共に働き、共に経営する組織であるところ」及び「少人数で設立できるところ」(ともに 46.7%) が最も多く、以下「設立に係る費用が少額であるところ」(40.0%)、「行政庁の認可法人であるところ」(33.3%)、「最低資本金の制度の適用がないところ」(26.7%) といった回答が続く(図表 24)。

図表 24 企業組合の魅力



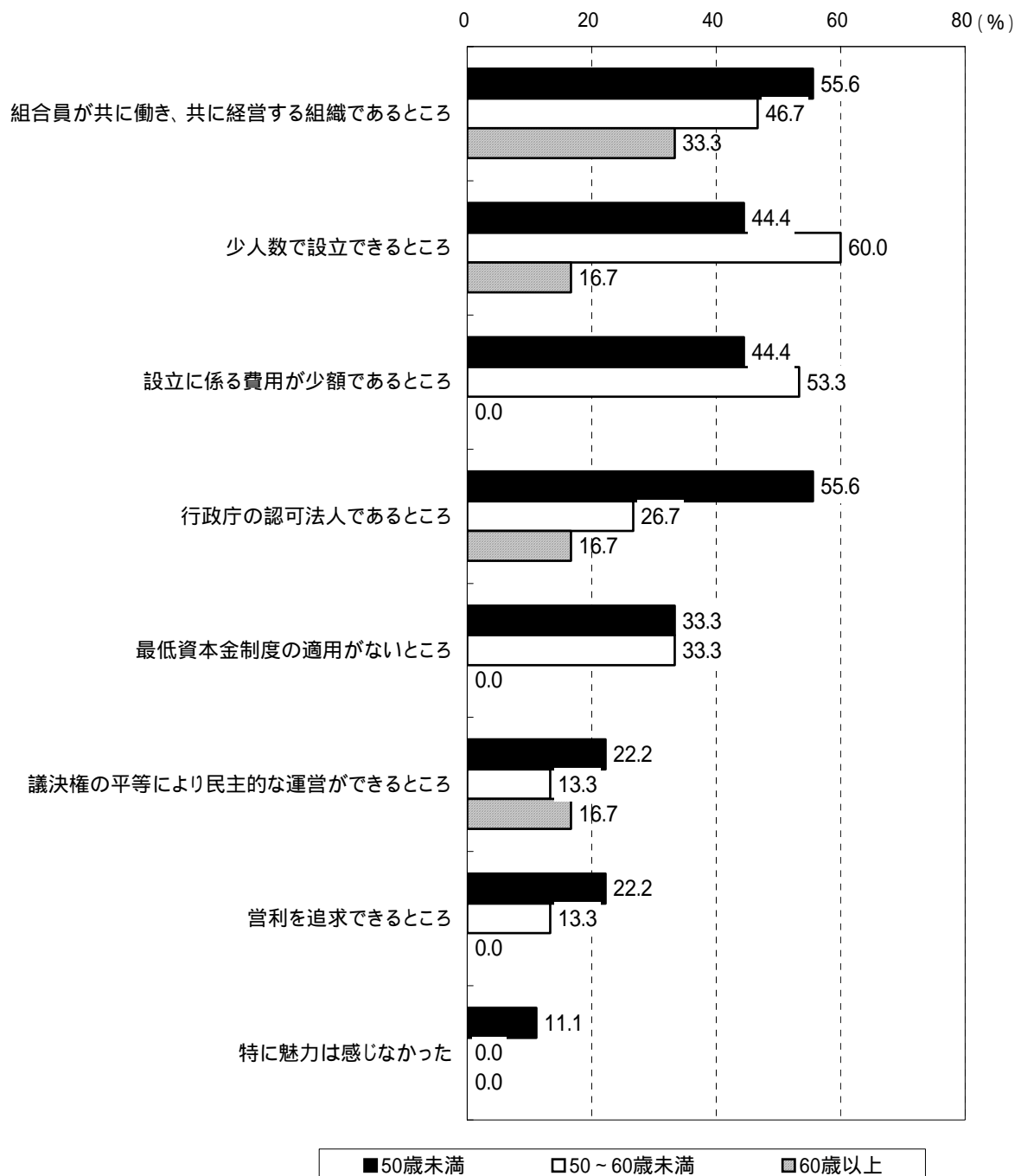
これを性別に見ると、全体的に「女性」の方が回答割合が高く、とくに「行政の認可法人であるところ」(45.5%)や「最低資本金制度の適用がないところ」(36.4%)、「議決権の平等により民主的な運営ができるところ」(27.3%)といった項目で回答割合が高くなっている点が目立つ(図表25)。

図表25 企業組合の魅力(性別)



また、年齢別にみると、「50歳未満」では「組合員が共に働き、共に経営する組織であるところ」や「行政庁の認可法人であるところ」（ともに55.6%）、「議決権の平等により民主的な運営ができるところ」「営利を追求できるところ」（ともに22.2%）等の回答が比較的多く、「50～60歳未満」では「少人数で設立できるところ」（60.0%）や「設立に係る費用が少額であるところ」（53.3%）等の回答が多くなっている（図表26）。

図表26 企業組合の魅力（年齢別）



2 - 1 5 企業組合に対する詳しい説明

企業組合に対して、今回のセミナーよりもさらに詳しい説明を希望するかどうかを尋ねた。その結果、「是非聞きたい」が 36.7%、「機会があれば聞きたい」が 50.0%、「聞く必要はない」が 3.3%となっている。

これを性別にみると、「女性」に比べて「男性」の方が、「是非聞きたい」という回答が多くなっている（図表 27）。

図表 27 企業組合に対する詳しい説明（性別）

